

平成28年度 英語力調査結果（中学3年生）の速報

1 調査の目的

- 中学3年生を対象に、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、経年比較を含め、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉

「第2期教育振興基本計画」（平成25年～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。また、成果指標として、中学3年生、高校3年生の英語力の目標を設定。

* 第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標

①国際共通語としての英語力の向上

・ 学習指導要領に基づき達成される英語力の目標

（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

2 調査の内容・対象

- 全国の中学3年生約6万人（国公立約600校）の英語力を調査
 - ・ 学習指導要領に基づき、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の英語力を測定する試験を実施。
 - ・ 「話すこと」は約2万人を調査（1校あたり1クラスを対象）。

- 生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析（質問紙調査）
 - ・ 受験した生徒：英語学習に関する関心・意欲や授業内外における学習状況
 - ・ 調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導状況 など

- 学校の取組事例
 - ・ 調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査

※ 本年度は「話すこと」の事前研修、「話すこと」「書くこと」の調査後の検収の状況、「話すこと」の調査に係る実施体制などの追加調査を実施

- 調査実施時期：平成28年7月中実施
※平成28年10月末 生徒個人票返却、平成29年3月末を目途に結果をとりまとめ・公表

3 調査の特徴

- 国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験のフィージビリティ調査。（H27年度英語力調査事業に続き、本年度の実施において初めて中学3年生経年比較調査を実施）
- 現行学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施。
- 世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1を中心にレベルを測定できるように設計。（別紙参照）

4 テスト結果の分析サマリ

※以下の結果・分析は公立学校のデータを対象としている

「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能がバランス良く育成されておらず、特に「書く」の無得点者が課題

1. 生徒全体の英語力の傾向

P.7参照

- ・国の目標(CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠) A1上位レベル以上)の生徒の割合が「読むこと」「話すこと」において微減(「読むこと: 26.1%→25.3%」「話すこと: 32.6%→31.2%」、「聞くこと」「書くこと」は微増(「聞くこと: 20.2%→24.8%」「書くこと: 43.2%→50.8%」)となっており、4技能のバランスがとれておらず、依然として課題がある。
- ・「書くこと」の得点者は、A1上位レベル以上の割合が50.8%と4技能の中で最も高いが、一方で、無得点者が15.6%となるなど、昨年度と同様の傾向である。

【テスト結果と生徒質問紙のクロス集計】

2. 英語学習に対する生徒の意識

学習意欲に課題

＜テスト結果と質問紙の分析＞

P8~10参照

○「英語の学習は好きですか。」

- ・「英語の学習が好きではない」との回答が**45.4% (対前年2.2ポイント増加)**。
- ・**テストスコアが高いほど**、「英語が好きである」**生徒の割合が高い**。
- ・特に「書くこと」については、テストスコアが高い層と低い層の英語学習に対する意欲の差が大きい。また、「書くこと」について、「**英語学習が好きではない**」と回答した**A1下位レベルの生徒は、「英語そのものが嫌い」、「単語の綴りや文字を覚えることが難しい、文法が難しい」と回答した者が多い。**

○「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。」

- ・現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。
- ・「英語をどの程度身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「**書くこと」「話すこと」のテストスコアが高いほど**、「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」、「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」といった**将来の英語使用のイメージが明確な生徒の割合が高い**。

〈2. の改善の方向性〉

⇒生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、具体的な教育目標を設定し、生徒の学ぶ意欲の向上を図るようにする。特に、無得点者が多かった「書くこと」については、**段階的に文を書くことに慣れた上で、文字を書いたり読んだりすることの有用性を感じることができるよう**に指導するなど、学習意欲を向上する工夫や具体的な課題を改善する授業改善が必要。

3. 4技能の言語活動に対する生徒の意識

特に「話す」「書く」言語活動が十分でない

＜テスト結果と質問紙の分析＞

P.11~16参照

【聞くこと】

○「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」

- ・英語を聞いて概要や要点をとらえる活動をしていましたと答えた生徒は、**73.8% (対前年1.3ポイント増加)**。
- ・「聞くこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたと思う」**生徒の割合が高い**。

【話すこと】

○「与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。」

- ・与えられた話題について、即興で話す活動をしていましたと答えた生徒は、**52.0% (対前年2.4ポイント増加)**。
- ・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていましたと思う」**生徒の割合が高い**。

○「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていましたか。」

- ・英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていましたと答えた生徒は、**61.0% (対前年2.0ポイント増加)**。
- ・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていましたと思う」**生徒の割合が高い**。

〔読むこと〕

- 「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていましたか。」
 - ・英語を読んで概要や要点をとらえる活動をしていたと答えた生徒は、**76.4%**（対前年**1.1ポイント増加**）。
 - ・「読むこと」の**テストスコアが高いほど**授業において「英語を読んで一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」**生徒の割合が高い**。

〔書くこと〕

- 「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いていたか。」
 - ・聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いていたかとする活動をしていたと答えた生徒は、**63.4%**（対前年**1.2ポイント増加**）。
 - ・「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いていたかと思う」**生徒の割合が高い**。

〔統合型〕

- 「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたか。」
 - ・聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしていたと答えた生徒は、**68.7%**（対前年**1.5ポイント増加**）。
 - ・「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたかと思う」**生徒の割合が高い**。

〈3. の改善の方向性〉

- ⇒コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、生徒の興味・関心が高い話題や、日常的・社会的な話題など幅広い話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする対話的な言語活動を豊富に体験させ、総合的なコミュニケーション能力を高めることが必要。
- ⇒あわせて「聞いたり読んだりしたことに基づいて話したり書いたりする」などの統合型の言語活動を通し、主体的・対話的に、自分の考えや気持ちを互いに伝え合うことを重視した学習・指導と評価を行うことが必要。

統合型の言語活動を重視した指導と評価が十分でない

【教員質問紙結果集計】

4. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識

＜質問紙の分析＞

P.17~20参照

〔聞くこと〕

- 「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。」
 - ・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている教員は、**72.1%**（対前年**1.4ポイント減少**）。

〔話すこと〕

- 「与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。」
 - ・スピーチをする活動を行っている教員は、**57.9%**（対前年**4.4ポイント増加**）。

〔読むこと〕

- 「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。」
 - ・伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている教員は、**50.7%**（対前年**3.7ポイント増加**）。

〔書くこと〕

- 「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。」
 - ・自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文章を書く活動を行っている教員は、**56.1%**（対前年**1.6ポイント増加**）。

〔統合型〕

- 「聞いたり読んだりしたことなどについて問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。」
- 「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。」
 - ・聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考えなどについて、話合いや意見交換を行っている教員は、**40.0%（対前年2.9ポイント増加）**、書く活動を行っている教員は、**39.6%（対前年2.1ポイント増加）**。
- 「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか」
 - ・英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示すことができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている教員が、**37.5%（対前年0.1ポイント増加）**。

〈4. の改善の方向性〉

⇒互いの気持ちなどを伝え合う対話的な活動を行うペア・ワーク、グループ・ワークなどの指導、生徒の興味・関心の高い内容、日常的・社会的な話題などについて伝え合う活動などを効果的に行う授業の実施、「話す」「書く」の能力を適切に測るためのパフォーマンス評価等、教員養成・研修において、2. 3. の改善の方向性に沿った実践的な内容の改善が必要。

5. 生徒の英語力に関する学習到達目標の設定状況

〈質問紙の分析〉

- 「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか。」
 - ・「生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DOリストの形で技能別に設定している」と回答した学校は、**45.7%（対前年12.3ポイント増加）**。

学習到達目標を設定している学校は増加 P.20参照

6. 外国語活動指導に対する生徒・教員の意識

〈質問紙の分析〉

〔生徒〕

- 「小学校の時、あなたは、英語が好きでしたか。」
 - ・「英語が好きだと思っていた」との回答が、**54.7%**。
 - ・「聞くこと」「話すこと」の**テストスコアが高いほど**、「小学校の時に、**英語**が好きだと思っていた」**生徒の割合が高い**。
- 「小学校の時、英語の授業は好きでしたか。」
 - ・「英語の授業が好きだと思っていた」との回答が、**57.0%**。
 - ・「話すこと」「書くこと」の**テストスコアが高いほど**、「小学校の時に、**英語の授業**が好きだと思っていた」**生徒の割合が高い**。
- 「小学校の時、英語を使ってしてみたいことは何でしたか。」
 - ・「英語を使ってしてみたいことは何でしたか」という問いに対し、「海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった」を選択した生徒の割合が**26.6%**と高い。
- 「小学校の時、英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことでしたか。」
 - ・「小学校の時、英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことでしたか。」という問いに対して、「外国のすることについて学ぶこと」が**20.7%**、「英語で友達と会話すること」が**19.6%**、「英語で外国人の先生と会話すること」を選択した生徒の割合が**13.5%**と高い。
- 「あなたが学校以外で英語の学習を開始した時期はいつですか。」
 - ・「あなたが学校以外で英語の学習を開始した時期はいつですか」という問いに対して「小学校6年生」と回答した生徒の割合が**31.5%**と最も高い。

外国語活動によって、生徒が英語の音声に慣れ親しんでいる、と感じる教員が多い

P.21~25参照

〈6. の改善の方向性〉

⇒小学校外国語活動の「聞くこと」「話すこと」の学びを通して音声に慣れ親しみ、学習意欲を高めた成果を、中学校においても継続して生かすための指導を工夫して行うことが必要。

⇒特に、A1下位レベルで「書くこと」において文字や単語のつづりに苦手意識を持つ生徒は、小学校において、音声中心のコミュニケーションを体験したことを踏まえ、**中学校の初めの段階で、小学校で慣れ親しんだ語句や表現を用いて、英語の書き方の規則や語順を意識しながら、自分の気持ちを書いたりする活動を行い、「書くこと」への抵抗感を払拭することが必要。**また、生徒が「書くこと」の有用性を感じることを通して、**学んだ語句や表現を場面において適切に活用できるよう指導の改善を図ることが必要。**

〔教員〕

- 「外国語活動を経験した中学生の英語力について具体的にどのような成果や変容がみられましたか。」
 - ・外国語活動を経験した中学生の英語力について、「英語の音声に慣れ親しんでいる」と回答した教員の割合は、**73.8%**と最も高い。
- 「小学校で外国語活動が行われたことで貴校の外国語担当教員に変化は見られましたか。」
 - ・小学校で外国語活動が行われたことで、「小中連携に関する取組が一層促進された」と回答した教員の割合は、**52.6%**と最も高い。一方で、「外国語活動を踏まえた指導の工夫がみられるようになった」と回答した教員の割合は**0.6%**となっており、具体的な指導における連携は意識されていない状況が見られる。

5 調査結果の傾向と指導改善のポイント

P30~42参照

(◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点)

〔読むこと〕

- ◇昨年同様、短文レベルの語彙・語法問題（Part A）や、概要把握問題（Part B）の中には、正答率が70%を超えるものもある。
- ◆短文における話の流れや複数の情報相互の論理関係を理解する力に課題がある。
- ◆英文の流れを大まかに押さえながら情報を検索することに課題がある。
- ◆英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。
- ◆まとまった量の英文を読み、概要や要点を読み取ることに課題がある。

☞指導改善のポイント

- 学習者のレベルにあった短い文章をたくさん読む活動を行うとともに、文章を初めから終わりまで通して読む機会を設定する。
- 逐語的な読みから脱却し、簡単な語句や短い文で書かれた英文を意味のまとまりごとに捉える活動を行う。
- 目的に合わせて英文を読む活動を行う。
- 読んで終わりではなく、理解したことを基に話したり書いたりする活動を行う。
- A1下位レベルの生徒においては、逐語的な読みを行い英文全体の文脈を捉えることに課題があることが考えられるため、簡単な語句や文で書かれた短い文章を繰り返し読んで、それらの概要や要点を捉えることができる活動を行う。このような活動を通して、まず読むことへの抵抗感をなくすとともに、読んで理解できたという自信を持たせることが重要である。

〔聞くこと〕

- ◇短い英文で、問われている語句が示されている場合は、それを認識して正しく理解することができる。（「イラスト説明問題」（Part A）では90%以上の正答率のものもある）
- ◆英文を聞く際に、印象に残りやすい語に引きずられる傾向がある。英文全体の意味を理解し、その情報を一時的に保持した上で、解答にたどり着く力が求められる。
- ◆慣れ親しんでいる語句や表現が使われている選択肢を選びやすい。また、1文の中に不慣れな単語や表現が含まれている場合は、全体の意味の把握に困難が生じると言える。
- ◆語句単位で断片的な理解はできているが、文全体及び文脈で意味を把握することに課題がある。
- ◆まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

☞指導改善のポイント

- 多様な表現をインプット・アウトプットする活動を行う。
- まとまりのある英語を初めから終わりまで通して聞く機会を設定する。
- 聞くポイントを事前に示したり、聞く場面や状況を明確にしたりするなど、目的を持って聞く活動を行う。
- 聞いて終わりではなく、理解したことを基に話したり書いたりする活動を行う。
- A1下位レベルの生徒に対しては、日常的な話題に関する簡単な内容から必要な情報を聞き取るなどの活動を通して、聞いて理解できたという自信を持たせることが重要である。

【書くこと】

- ◇設問2について、全体の約67%の生徒が自分の「考え」、約68%の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができています。A1下位レベルでも約44%の生徒が自分の「考え」、約45%の生徒が自分の考えに対する「理由」を書くことができています。
- ◆昨年度同様、文脈に沿った内容を適切に表現することに課題がある。
- ◆昨年度同様、評価の3つの観点「内容」「表現」「構成」の中では、「構成」の得点がほかよりやや低い結果となっている。
- ◆文を作ることはできても、まとまりのある文章を書くことに課題がある。
- ◆昨年度同様、無得点者が15.6%と非常に多く、そのほとんどが無解答である。

☞指導改善のポイント

- 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて、英文を書く機会を増やす工夫を行う。
- 文脈に沿った内容を書く指導の工夫を行う。
- 日常的・社会的な話題について、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いて伝えることに対する意欲を高め、求められている内容を適切に書く指導の工夫を行う。
- 聞いたり読んだりしたことについて自分の考えなどを書いたり、「話すこと」の言語活動において発話したことを書いてまとめたりするなど、他の領域との関連付けを図る。
- A1下位レベルの生徒に対しては、英語が嫌い、文字や綴り、文法などへの苦手意識が強いことから、特に、①簡単な語句や文を用いて段階的に文章を書く練習を取り入れる、②日頃から、自分の考え、気持ちや思いを表現する活動を繰り返し行う、③メールで書いて伝えるなど、実際のコミュニケーションの場面の中で相手に伝える活動を行うといったことを通して、生徒の意欲を高めながら書く機会を増やす工夫を行う。

【話すこと】

- ◇約90%の生徒が、母語アクセントが残っていたり、一部発音ミスがあつたりしても、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを発話することができる。
- ◇約75%の生徒が、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、相手の発話に対応した適切な内容で、おおむね応答できていた。
- ◆約40%の生徒は、基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答であった。
- ◆約70%の生徒は、与えられた質問についてある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて、自分の意見、理由などと関連付けながら考えを述べることに課題がある。

☞指導改善のポイント

- 生徒にとってもできるだけ興味・関心のある日常的・社会的な話題を取扱い、「相手に伝える」ことを重視した活動を行う。
- あらかじめ原稿等を準備して話すのではなく、簡単な語句や文を用いてその場で考えて即興的に話す活動を工夫する。即興的に話す力については、一度の授業で身に付くものではないことから、例えば毎回の授業の帯活動などを通して継続的に指導することが必要である。また、既習の語句・表現を用いることができる活動の場を設定することが重要である。
- 話す活動の後は、生徒が振り返ったり教員からフィードバックをしたりする機会を設ける。
- 日常的・社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話す活動を行う。
- A1下位レベルの生徒に対しては、生徒が相手に伝えたいことを伝えられる簡単な語句や表現を使ってペア・ワークを行うなど、生徒の意欲を高めながら話す活動を増やす工夫を行う。

1. 生徒全体の英語力の傾向

- 昨年度同様、4技能のバランスに課題がある。
 - ・CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠) A1レベル上位以上の割合が「聞くこと：24.8%」「話すこと：31.2%」「読むこと：25.3%」「書くこと：50.8%」となった。
 - 「聞くこと」(+4.6ポイント)「書くこと」(+7.6ポイント)は昨年より微増。
 - 「読むこと」(-0.8ポイント)「話すこと」(-1.4ポイント)は昨年より微減。
- 特に、「書くこと」の得点者はA1レベル上位以上の割合が50.8%と昨年より高いが、一方で、無得点者が15.6%と昨年度同等の傾向となっている。

【生徒全体のスコア分布(公立)】※CEFRのレベルについてはP46、47別紙参照

<読むこと>28問 (約32分)

読むこと CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
		人数	割合	人数	割合
A2	170	29,751	3.0%	30,695	3.1%
A1 上位	160	11,417	23.1%	9,511	22.2%
	150	13,558		12,940	
	140	17,780		15,704	
	130	25,113		25,592	
	120	35,536		34,276	
	110	52,016		48,116	
A1 下位	100	72,067	73.9%	70,442	74.6%
	90	98,810		103,405	
	80	122,758		131,231	
	70	131,467		144,072	
	60	123,406		127,703	
	50	98,874		93,587	
	40	77,130		65,584	
	30	43,771		38,398	
	20	18,676		14,236	
	10	9,321		7,628	
0	2,306	1,991			
平均		82.6		83.4	
調査対象		983,756		975,192	

<聞くこと>32問 (約18分)

聞くこと CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
		人数	割合	人数	割合
A2	170	20,920	2.1%	27,896	2.9%
A1 上位	160	8,713	18.1%	10,217	21.9%
	150	12,915		15,507	
	140	20,081		22,757	
	130	27,065		33,699	
	120	42,781		51,863	
	110	66,200		79,316	
A1 下位	100	103,445	79.8%	118,197	75.3%
	90	142,805		143,962	
	80	173,988		157,584	
	70	165,773		136,297	
	60	111,255		90,589	
	50	51,704		45,164	
	40	21,314		24,117	
	30	6,647		8,910	
	20	2,509		3,342	
	10	2,533		2,451	
0	3,108	3,243			
平均		90.5		93.8	
調査対象		983,756		975,203	

<書くこと>2問 (約25分)

書くこと CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
		人数	割合	人数	割合
A2	95	0	0.1%	0	0.1%
	90	0		0	
	85	0		0	
	80	20		0	
	75	111		110	
A1 上位	70	1,342	43.1%	1,115	50.7%
	65	5,463		4,108	
	60	29,181		28,972	
	55	40,866		45,208	
	50	54,332		90,202	
	45	82,315		88,413	
A1 下位	40	116,251	56.7%	126,993	49.2%
	35	97,538		112,148	
	30	92,319		93,467	
	25	76,900		44,480	
	20	68,606		31,539	
	15	26,999		71,686	
	10	86,955		86,749	
	5	17,872		0	
	0	190,086		152,977	
	平均			28.5	
調査対象		987,155		978,198	
0点のみ		124,230	12.6%	152,977	15.6%

<話すこと>3問 (対面約10分)

話すこと CEFR	得点	平成27年度		平成28年度	
		人数	割合	人数	割合
A1 上位	14	17,694	32.6%	12,402	31.2%
	13	17,221		12,009	
	12	20,525		16,544	
	11	19,837		16,761	
	10	24,180		39,261	
	9	23,200		26,510	
A1 下位	8	24,094	67.4%	28,916	68.8%
	7	26,597		31,462	
	6	26,921		34,432	
	5	28,002		28,813	
	4	20,323		0	
	3	23,500		28,105	
	2	11,642		12,930	
	1	12,219		11,762	
	0	8,999		11,167	
	平均			7.4	
調査対象		304,953		311,080	
0点のみ		8,999	3.0%	11,167	3.6%

※調査対象は都市規模と学校規模をもとに抽出を行った。調査結果は母集団に対する標本の抽出率に応じて抽出ウェイトをかけて集計を行っている。そのため、度数分布の各度数とアンケート解答人数は実際の被験者数とは異なる。

※平成28年度のスコアは、平成27年度と共通の尺度にするため「等化」を行っている。(等化とは同一の仕様に基づいて開発される問題項目の内容が異なる複数のテストの受験者間で得点を比較することを可能にする統計処理を指す)なお、「書くこと」「話すこと」において、人数が表れていない得点帯があるが、これらは等化の結果、得点が小数点以下を含んだ状態で算出され、度数分布を作成した際に出現しない得点帯があるためである。

※CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力評価のために、透明性が高く分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会(Council of Europe)が発表した。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等・中等教育を通じた目標として適用されたり、言語能力に関する調査を実施するにあたって用いられたりしている(P45別紙参照)。本調査では、便宜上A1~A2レベルまでを得点帯刻みに設定し分布を把握。A1は、CEFR-J(P46別紙参照)を参考に「上位」「下位」として整理している。

注)CEFRの「A1」は、CEFR-Jでは「A1.1」「A1.2」「A1.3」に分割される。本調査のCEFR閾値は、「Pre A1」「A1.1」を「A1下位」、「A1.2」「A1.3」を「A1上位」とした。

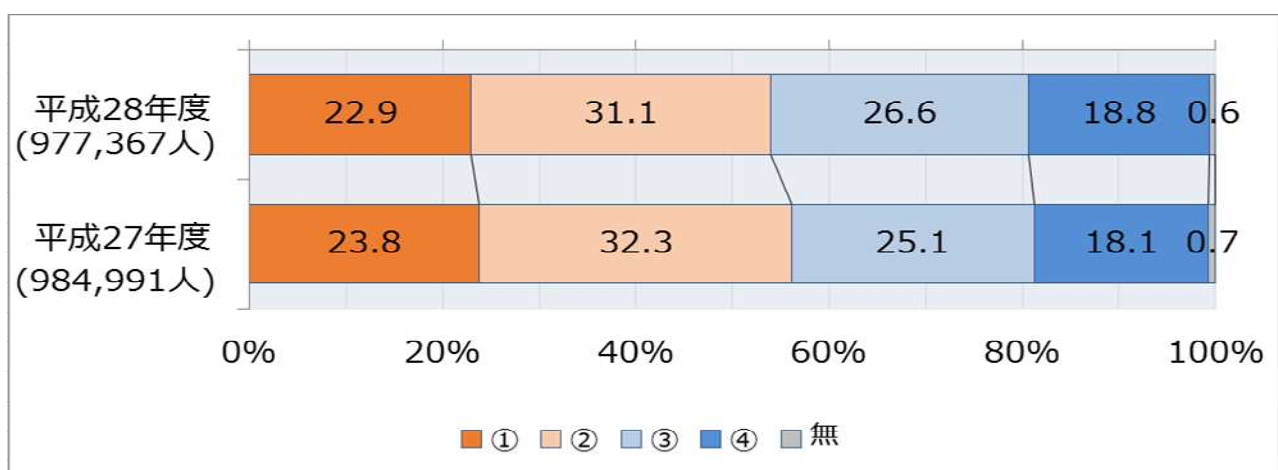
2. 英語学習に対する生徒の意識①

生徒の英語学習に対する意識

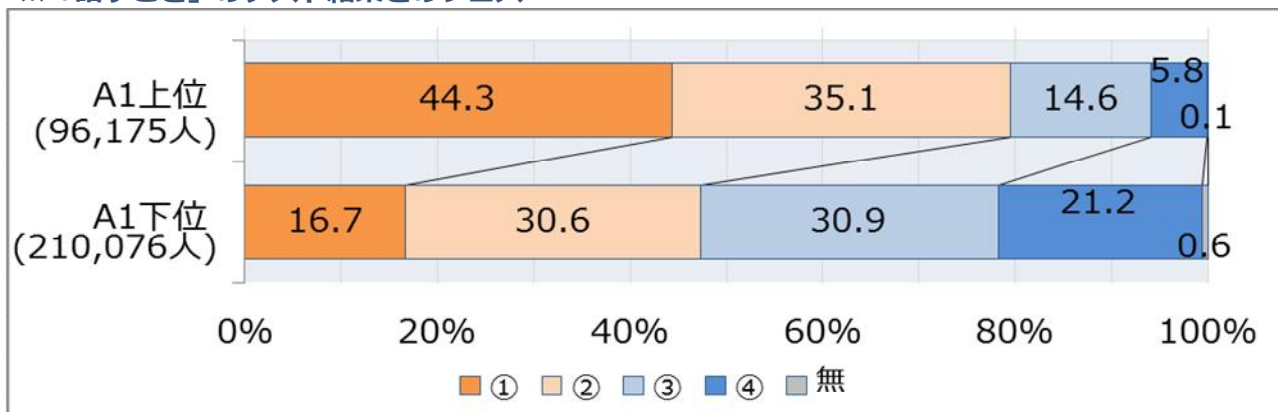
- 「英語が好きではない」（選択肢③④合計）との回答が、45.4%。
平成27年度の43.2%より2.2ポイント増加している。
- 「話すこと」「書くこと」のテストスコアが高いほど、「英語が好きである」（選択肢①②の合計）生徒の割合が高い。

問 英語の学習は好きですか。最も当てはまる選択肢を1つ選んでください。

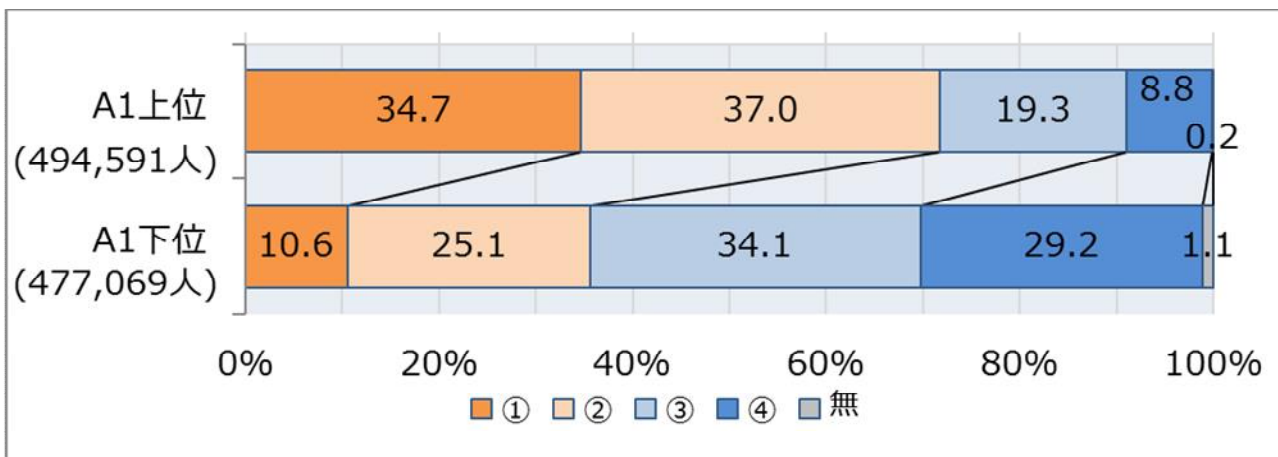
① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



※「書くこと」のテスト結果とのクロス



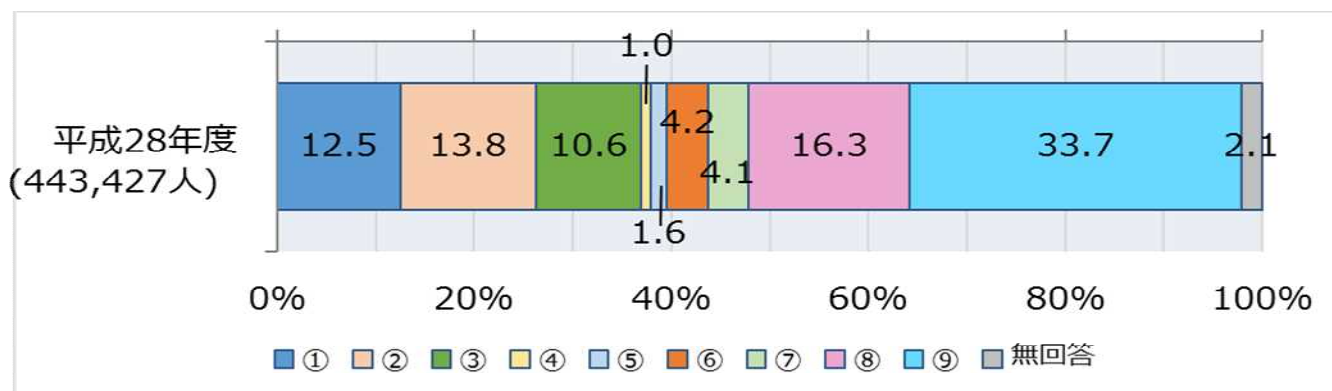
2. 英語学習に対する生徒の意識②

生徒の英語学習に対する意識

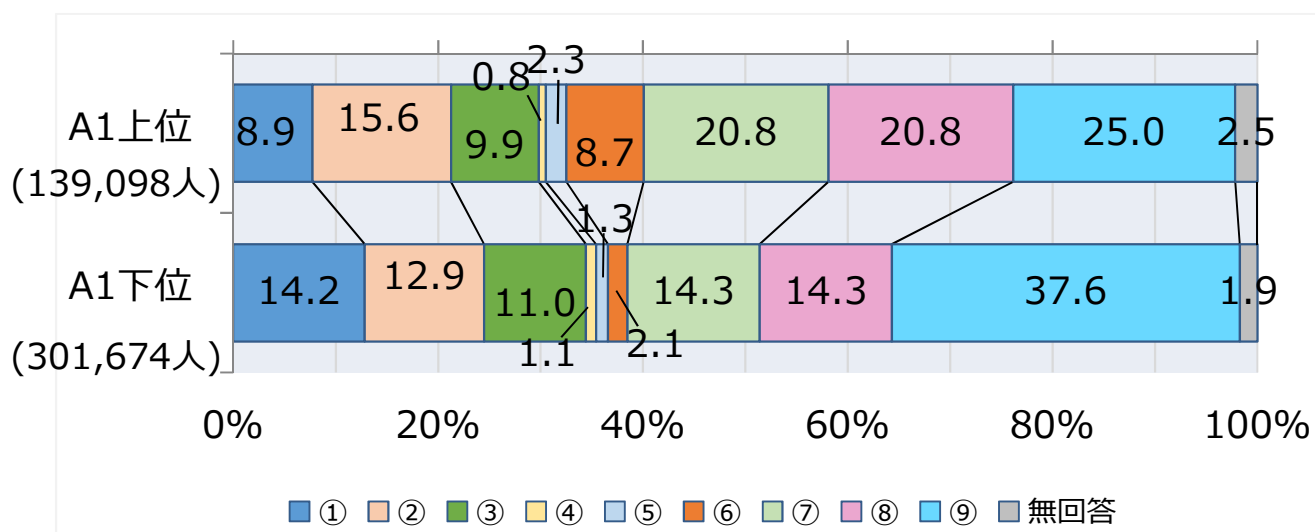
- 「英語が好きではない」と答えた理由として、「英語そのものが嫌い」という答えが最も多く、続けて、「英語のテストで思うような点数が取れない」「英語のつづりや文字を覚えるのが難しい」「文法が難しい」という答えが多かった。
- 「書くこと」のスコアが低い生徒については、スコアが高い生徒と比較して、「英語そのものが嫌い」「単語のつづりや文字を覚えるのが難しい」などの答えが多くなった。

問 （「英語の学習は好きですか」という問いに「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答した生徒のみ）その理由はなぜですか。当てはまるものを1つ選んで下さい。（新規）

- ①単語のつづりや文字を覚えるのが難しい ②文法が難しい ③英語の文を書くのが難しい
 ④英語の文を声に出して読むのが難しい ⑤英語を話すのが難しい ⑥英語を聞き取るのが難しい
 ⑦英語を読み取るのが難しい ⑧英語のテストで思うような点数がとれない ⑨英語そのものが嫌い



※ 「書くこと」のテスト結果とのクロス



2. 英語学習に対する生徒の意識③

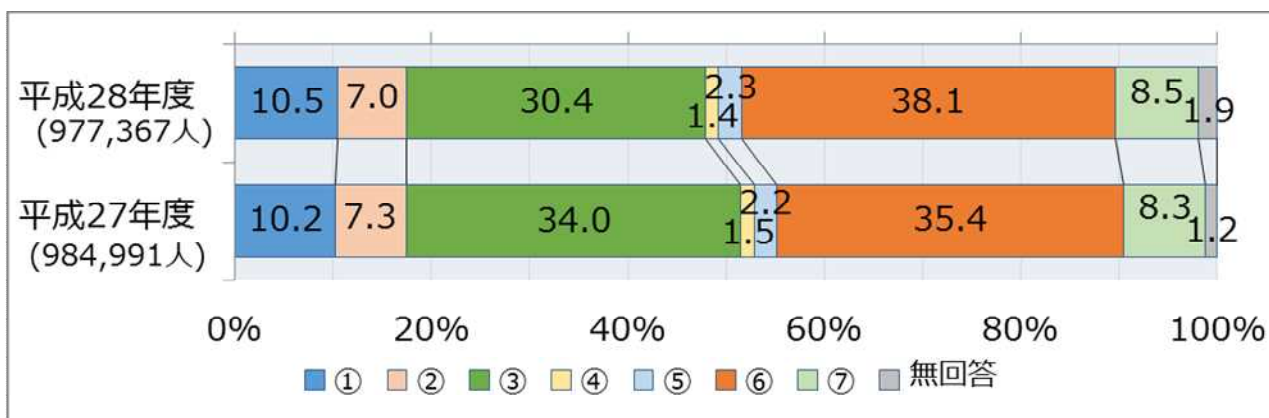
現在の英語力と将来の英語使用のイメージ

○現在の英語力のレベルによって将来の英語使用のイメージが異なる。

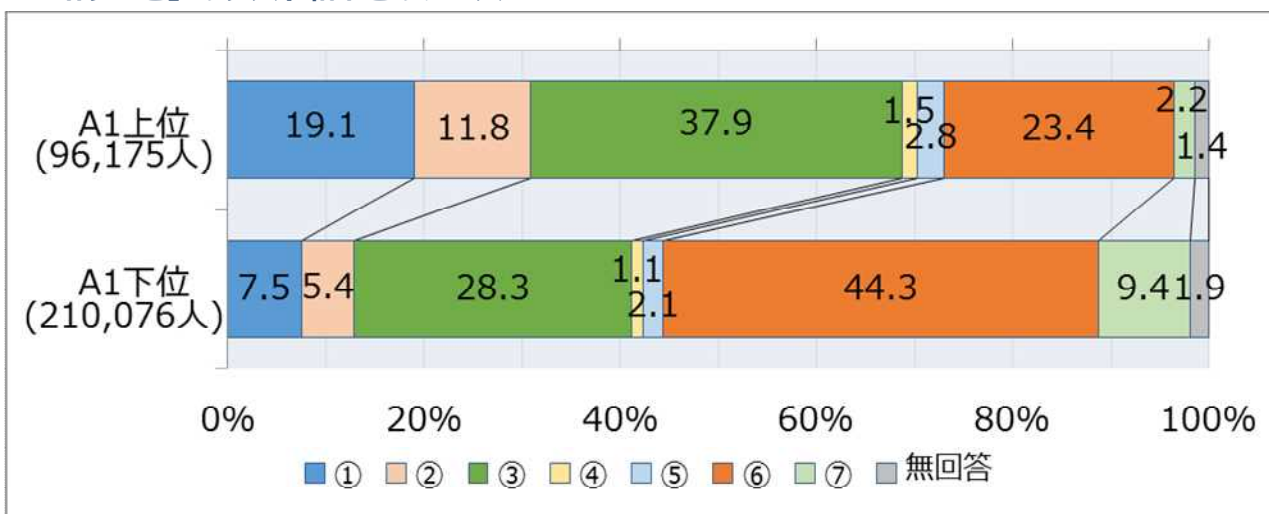
「どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか」という問いに対し、「話すこと」のテストスコアが高いほど、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい」（選択肢①）「海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい」（選択肢②）「海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい」（選択肢③）を選択する生徒の割合が高い。

問 どの程度まで英語を身に付けたいと思っていますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたい
- ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたい
- ③海外旅行などをするときに、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたい
- ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたい
- ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたい
- ⑥高校入試に対応できる力を付けたい
- ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていない



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



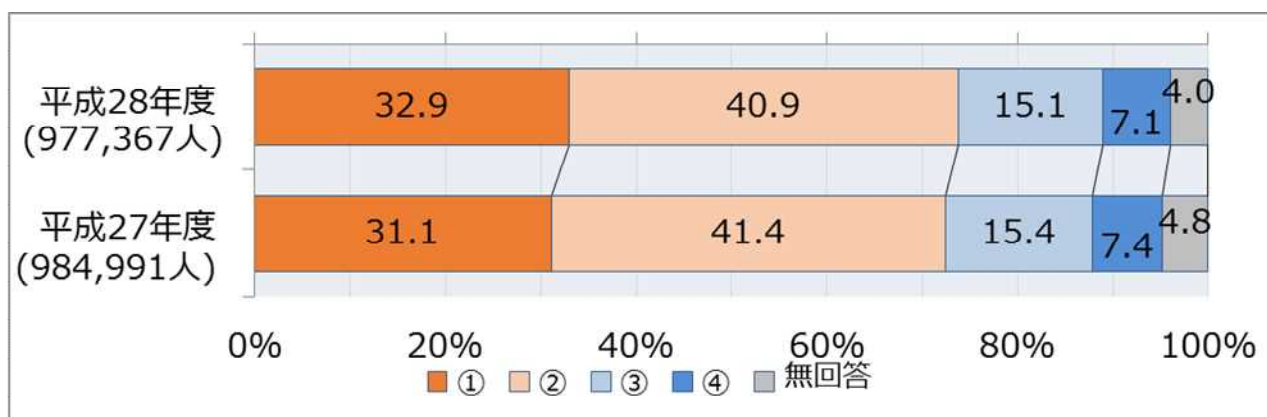
3. 言語活動に対する生徒の意識①

言語活動に対する生徒の意識「聞くこと」

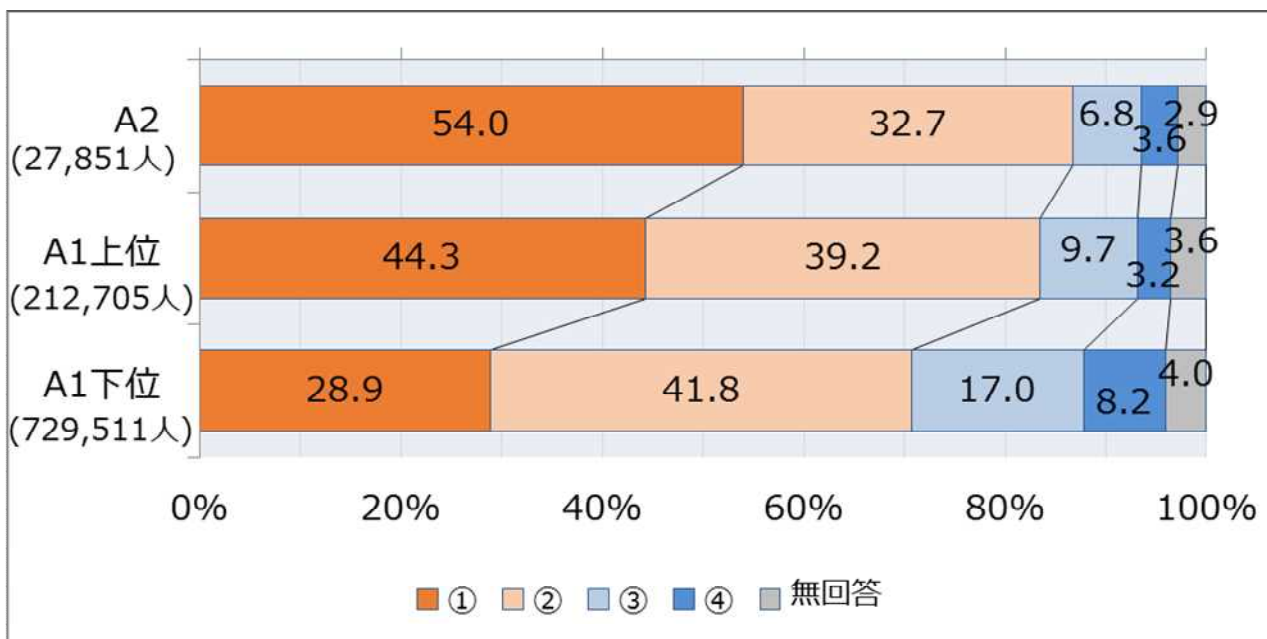
- 授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合は、73.8%。平成27年度の72.5%より1.3ポイント増加。
- 「聞くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「聞くこと」のテスト結果とのクロス



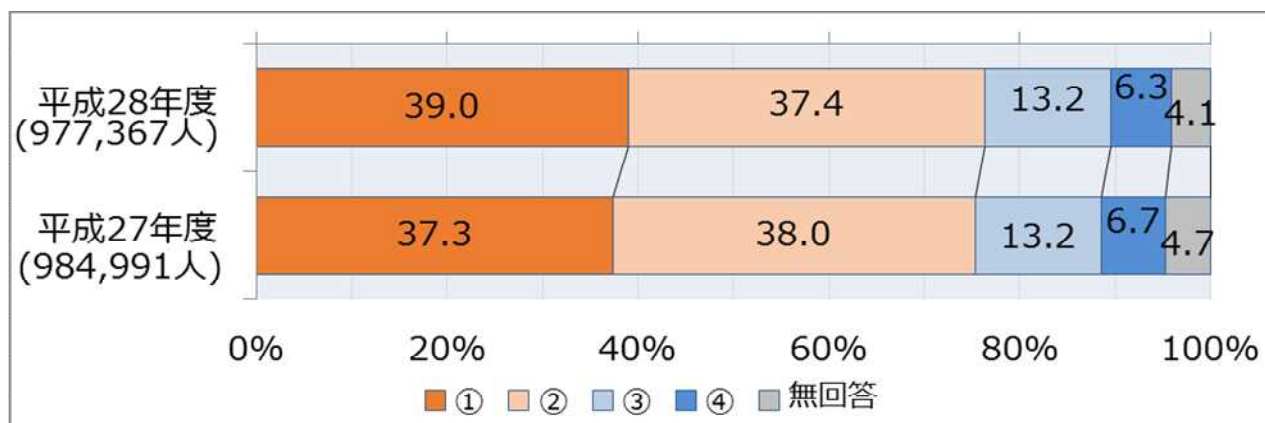
3. 言語活動に対する生徒の意識②

言語活動に対する生徒の意識「読むこと」

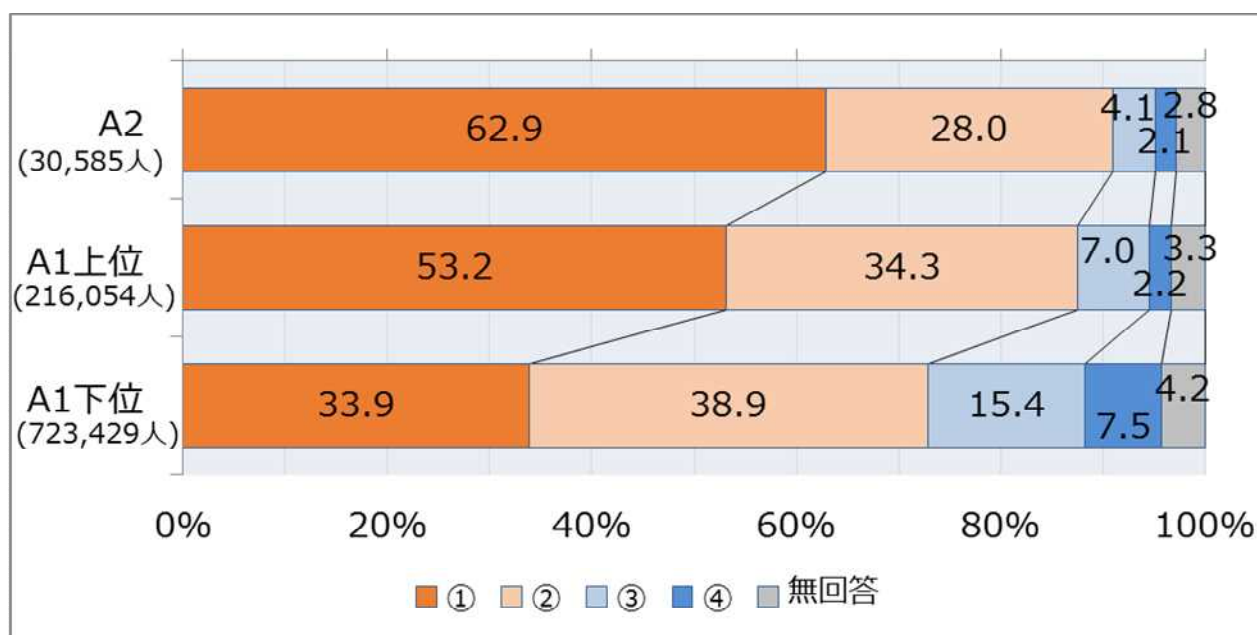
- 授業において「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合は、76.4%。平成27年度の75.3%よりも1.1ポイント増加。
- 「読むこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動をしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「読むこと」のテスト結果とのクロス



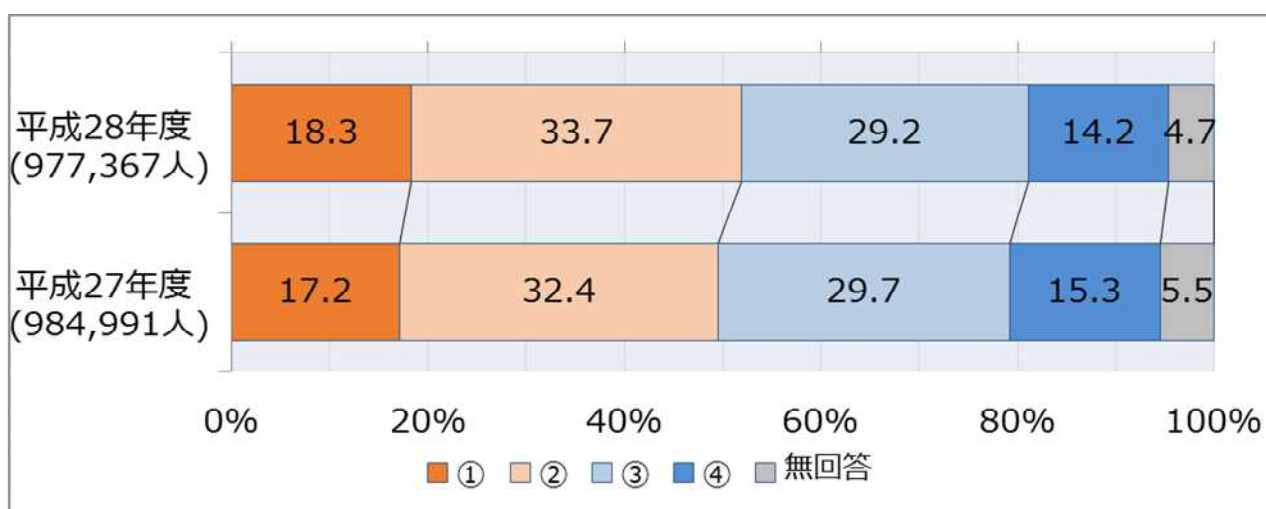
3. 言語活動に対する生徒の意識③

言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

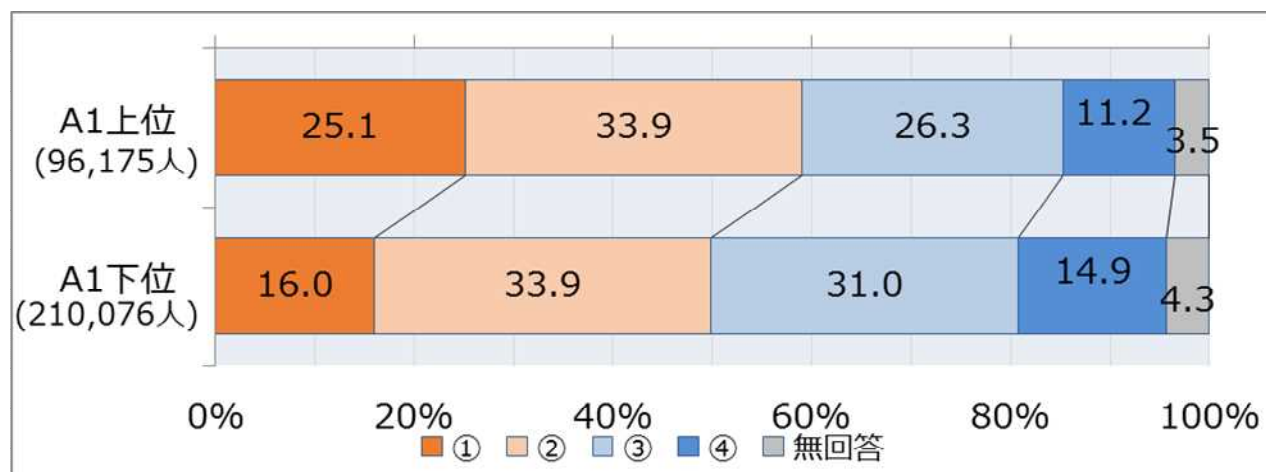
- 授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合は、52.0%。平成27年度の49.6%より2.4ポイント増加。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



3. 言語活動に対する生徒の意識④

言語活動に対する生徒の意識「話すこと」

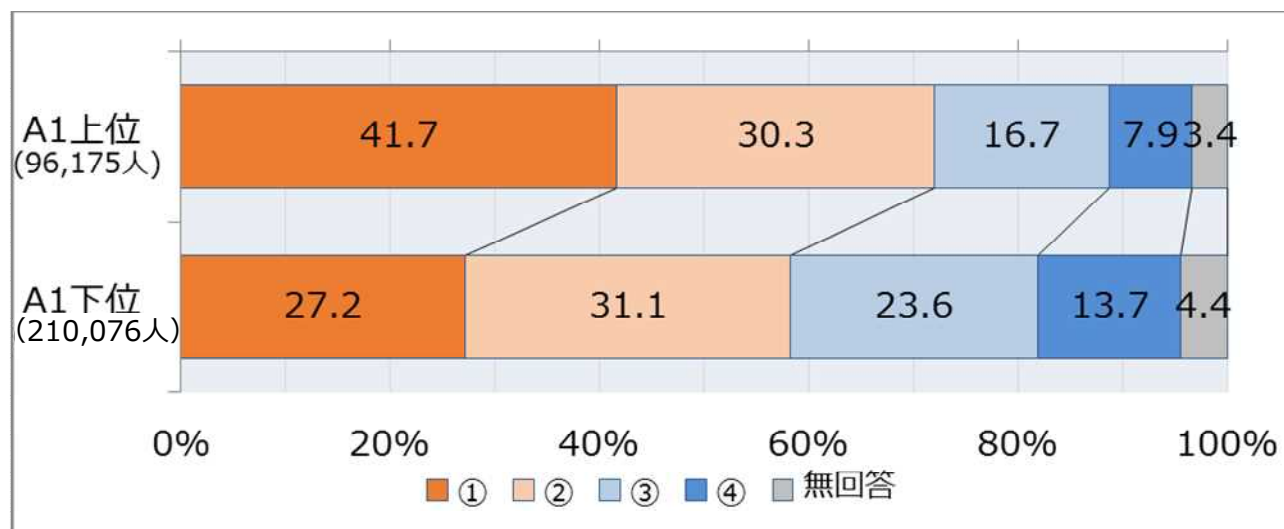
- 英語でスピーチやプレゼンテーションをする活動をしていた（選択肢①②合計）生徒は、61.0%。平成27年度の59.0%より2.0ポイント増加。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



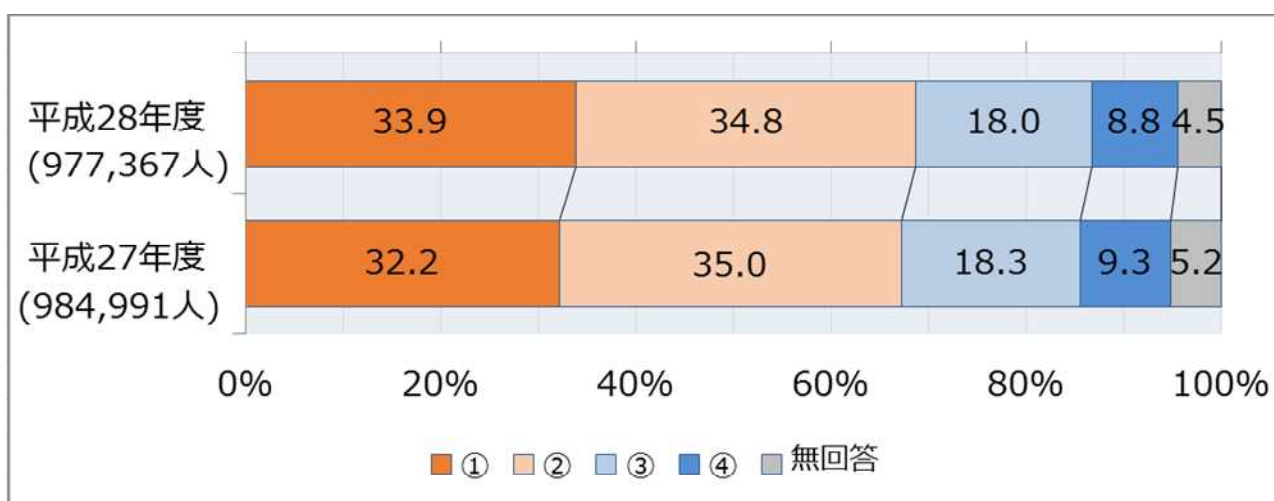
3. 言語活動に対する生徒の意識⑤

言語活動に対する生徒の意識 〈統合型：聞いたり読んだりして話すこと〉

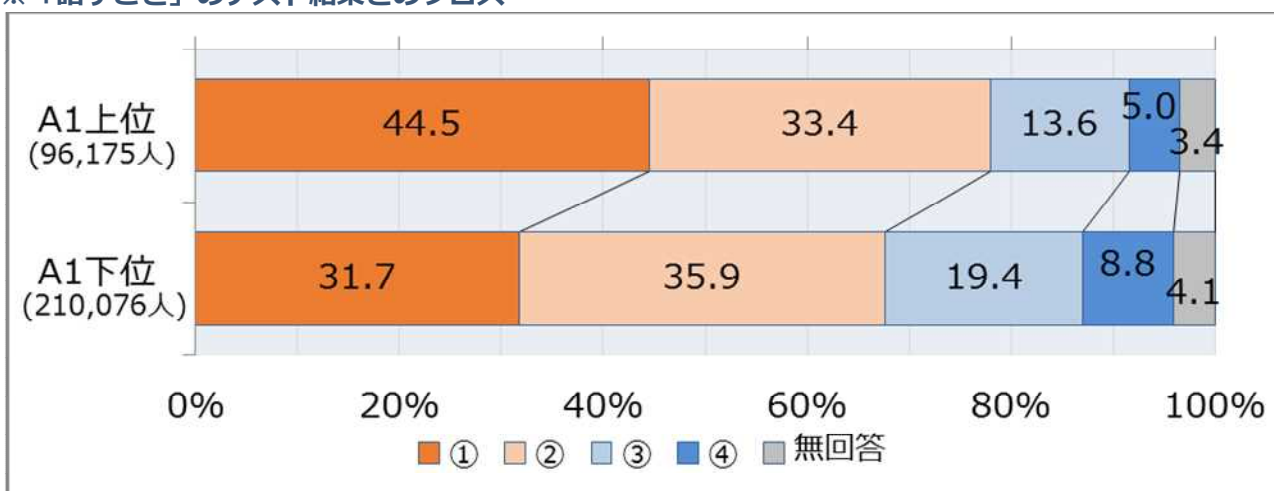
- 聞いたり読んだりしたことについて、英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動をしてきた（選択肢①②合計）生徒は、68.7%。平成27年度の67.2%より1.5ポイント増加。
- 「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思う」（選択肢①②合計）生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしていたと思いますか。

- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「話すこと」のテスト結果とのクロス



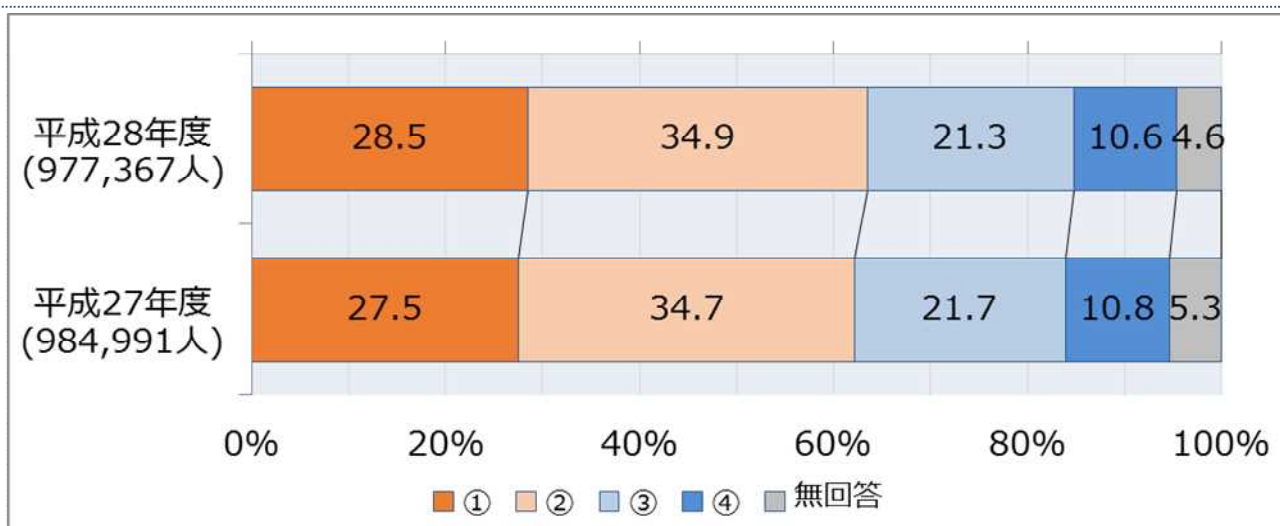
3. 言語活動に対する生徒の意識⑥

言語活動に対する生徒の意識 〈統合型：聞いたり読んだりして書くこと〉

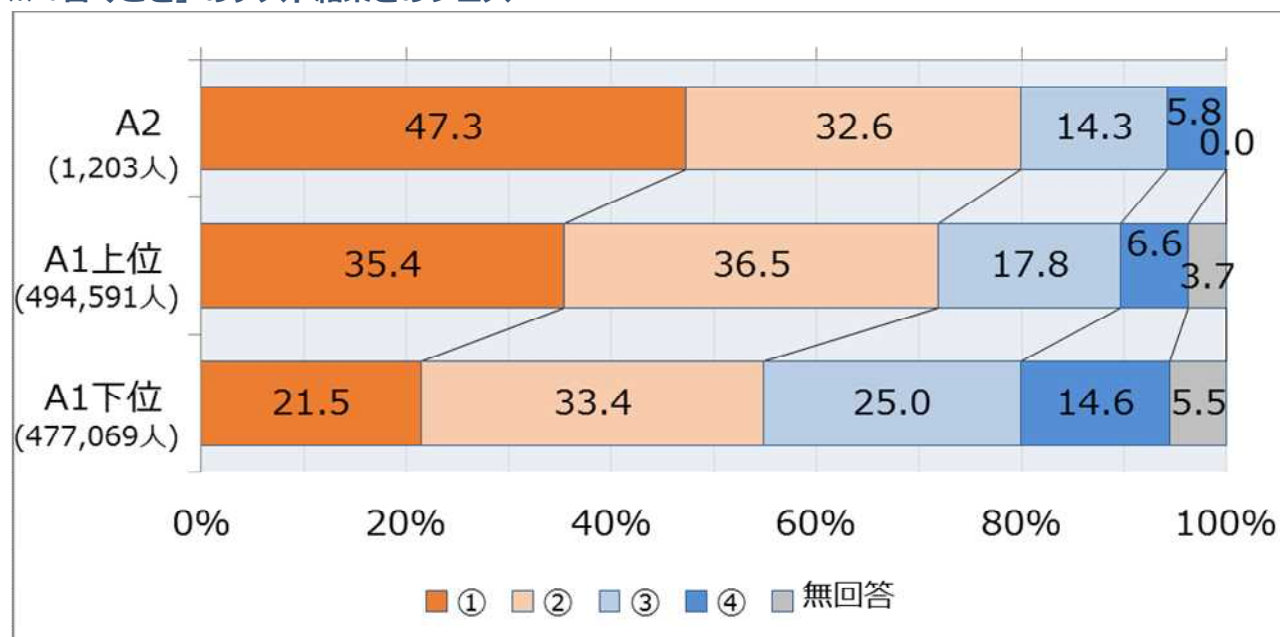
- 聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりした活動をしていた（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合は、63.4%。
平成27年度の62.2%より1.2ポイント増加。
- 「書くこと」のテストスコアが高いほど、授業において「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思う」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が高い。

問 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか。

① そう思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない



※ 「書くこと」のテスト結果とのクロス



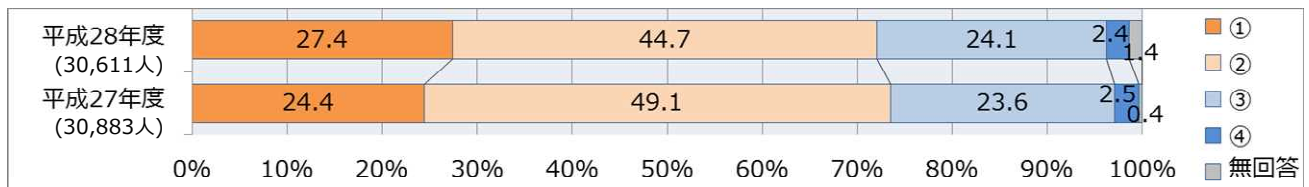
4. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識①

授業における言語活動の指導「聞くこと」

- まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、72.1%で、平成27年度の73.5%より1.4ポイント減少。

問 まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取る活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

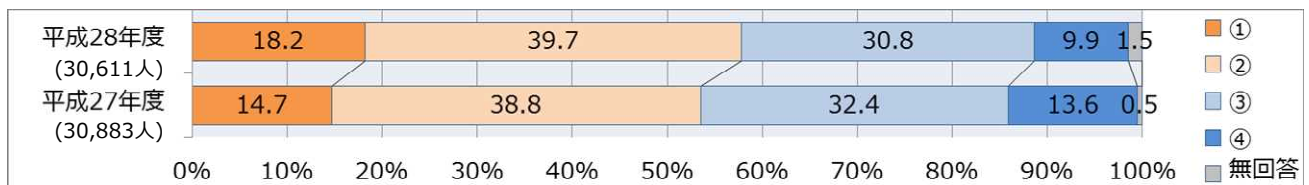


授業における言語活動の指導「話すこと」

- スピーチをする活動を行っている（選択肢①②合計）教員は、57.9%で、平成27年度の53.5%より4.4ポイント増加。

問 与えられたテーマについて簡単なスピーチをする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



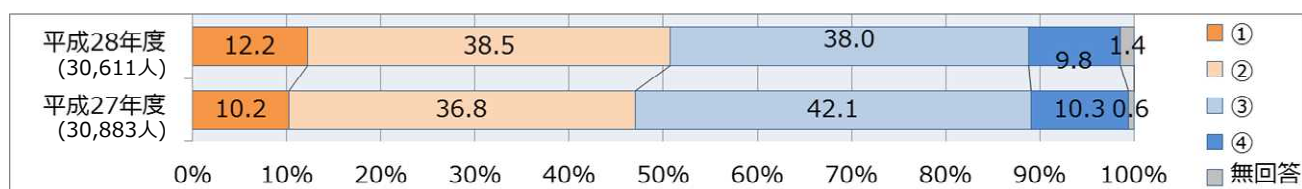
4. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識②

授業における言語活動の指導「読むこと」

- 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っている(選択肢①②合計)と回答した教員は、50.7%で、平成27年度の47.0%より3.7ポイント増加。

問 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない

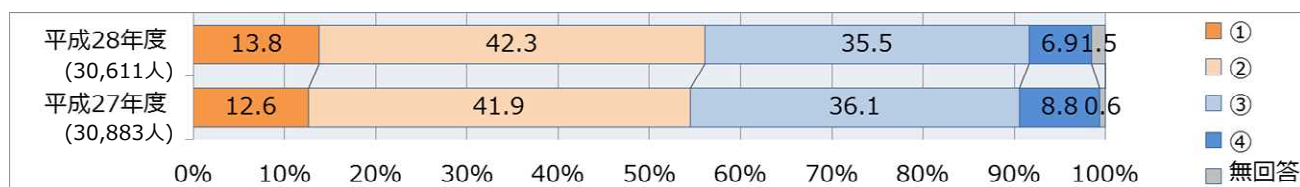


授業における言語活動の指導「書くこと」

- 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文章を書く活動を行っている(選択肢①②合計)と回答した教員は、56.1%で、平成27年度の54.5%より1.6ポイント増加。

問 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



4. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識③

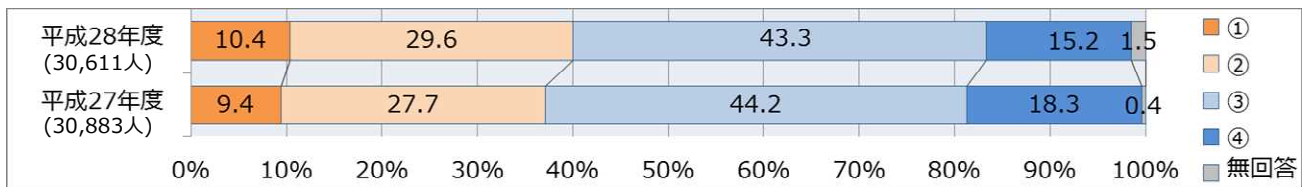
授業における言語活動の指導

＜統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく話し合いや意見交換＞

- 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っている（選択肢①②の合計）と回答した教員は、40.0%で、平成27年度の37.1%よりも2.9ポイント増加。

問 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



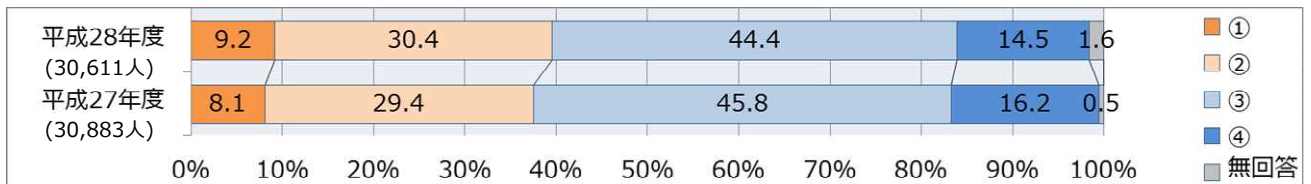
授業における言語活動の指導

＜統合型：聞いたり読んだりしたことに基づく書く活動＞

- 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っている（選択肢①②合計）と回答した教員は、39.6%で、平成27年度の37.5%よりも2.1ポイント増加。

問 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどする活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



4. 授業における言語活動の指導に対する教員の意識④

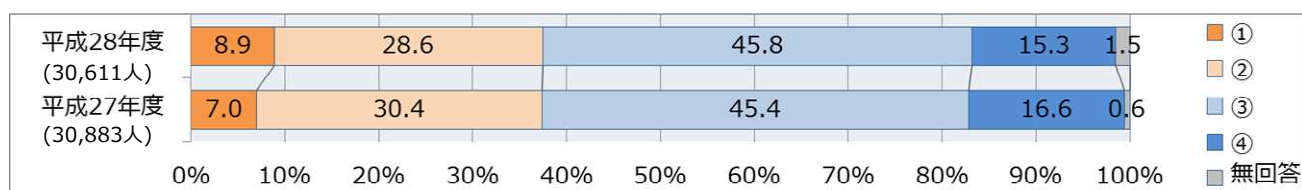
授業における言語活動の指導

<統合型：感想を述べたり賛否やその理由を示すため、英語を読んで概要や要点をとらえる活動>

- 英語を読んで、感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動をしている(選択肢①②合計) 教員は37.5%で、平成27年度の37.4%よりも0.1ポイント増加。

問 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動を行っていますか。

①よくしている ②どちらかといえば、している ③あまりしていない ④ほとんどしていない



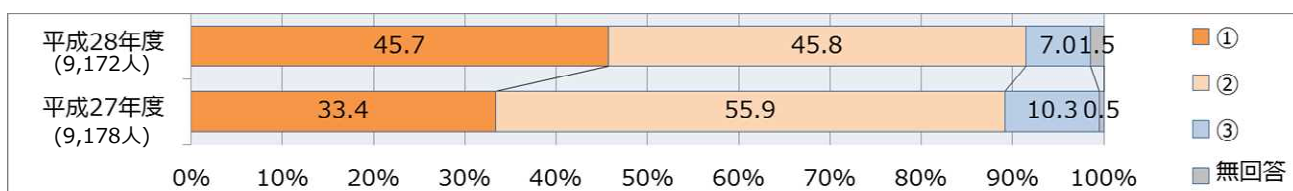
5. 生徒の英語力に関する学習到達目標の設定状況

学習到達目標の設定

- 生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DOリストの形で技能別に設定している(選択肢①)と回答した学校は45.7%で、平成27年度の33.4%よりも12.3ポイント増加。

問 生徒の英語力に関する学習到達目標について、CAN-DO リストの形で技能別に設定していますか。

①設定している ②今は設定していないが、今後設定する予定である ③設定しておらず、今後も設定する予定がない



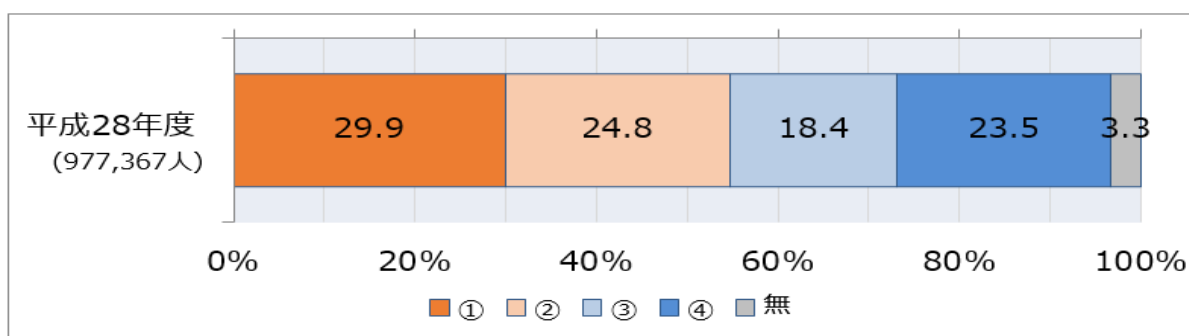
6. 小学校外国語活動指導に対する生徒・教員の意識①

生徒の英語学習に対する意識

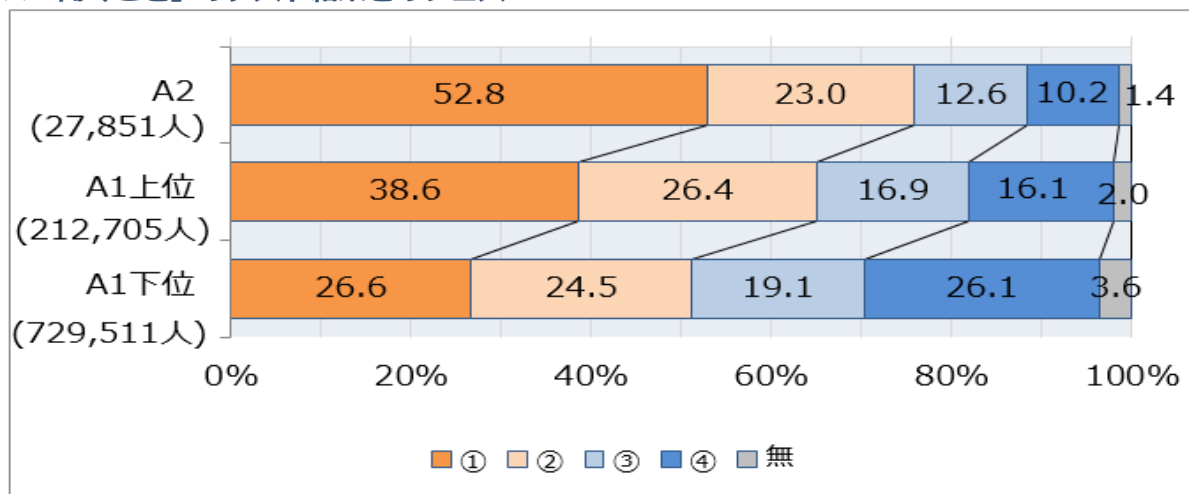
- 小学校の時、「英語が好きだと思っていた」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が、54.7%。
- 「聞くこと」「話すこと」のテストスコアが高いほど、「小学校の時に、英語が好きだと思っていた」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が高い。

問 小学校の時、あなたは、英語が好きでしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。（新規）

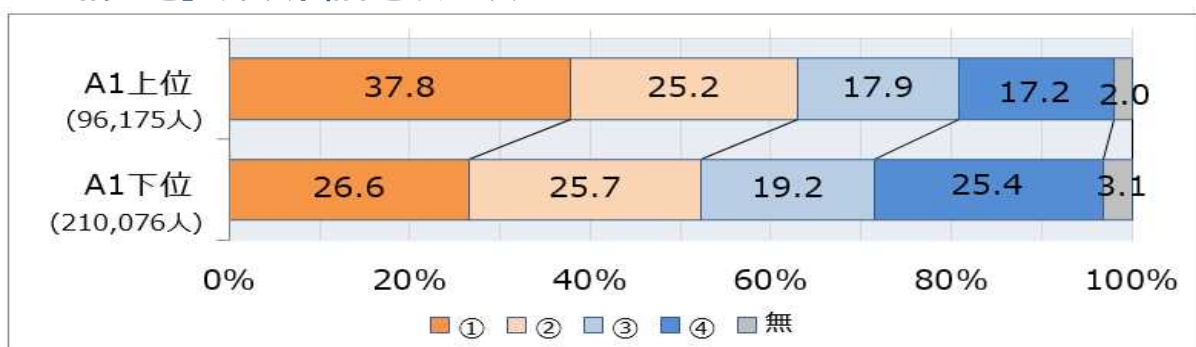
- ① そう思っていた
- ② どちらかといえば、そう思っていた
- ③ どちらかといえば、そう思っていなかった
- ④ そう思っていなかった



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



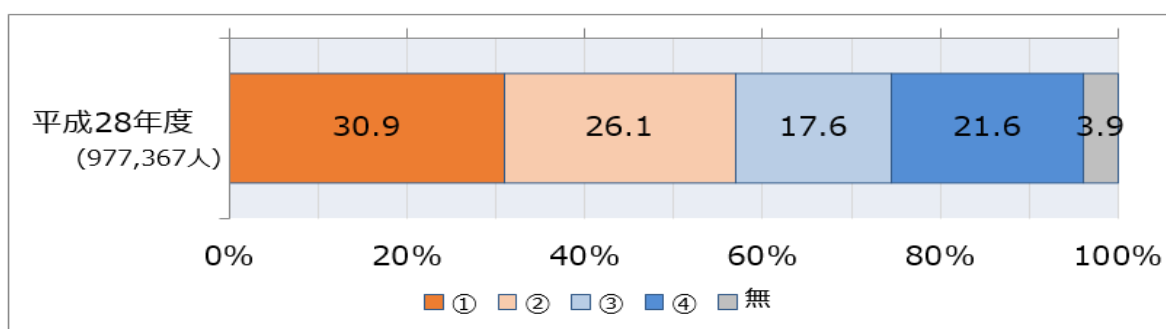
6. 小学校外国語活動指導に対する生徒・教員の意識②

生徒の外国語活動に対する意識

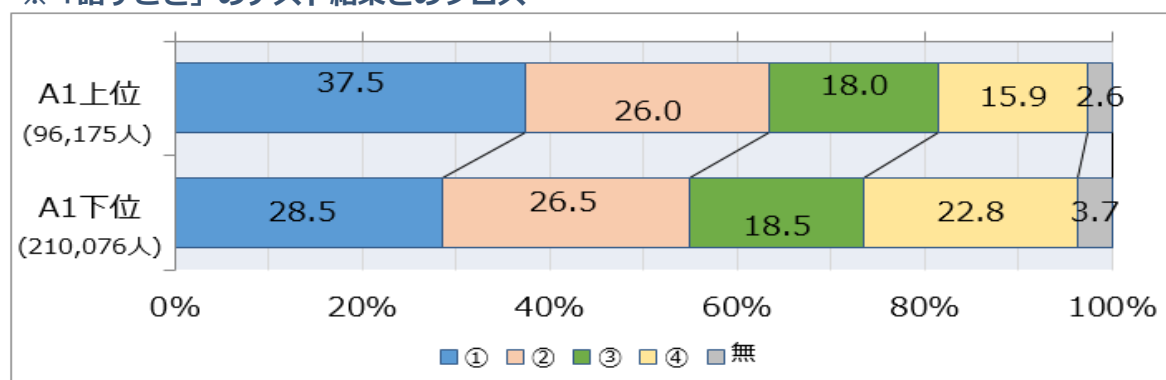
- 小学校の時、「英語の授業が好きだと思っていた」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が、57.0%。
- 「話すこと」「書くこと」のテストスコアが高いほど、「小学校の時に、英語の授業が好きだと思っていた」（選択肢①②合計）と回答した生徒の割合が高い。

問 小学校の時、英語の授業は好きでしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。（新規）

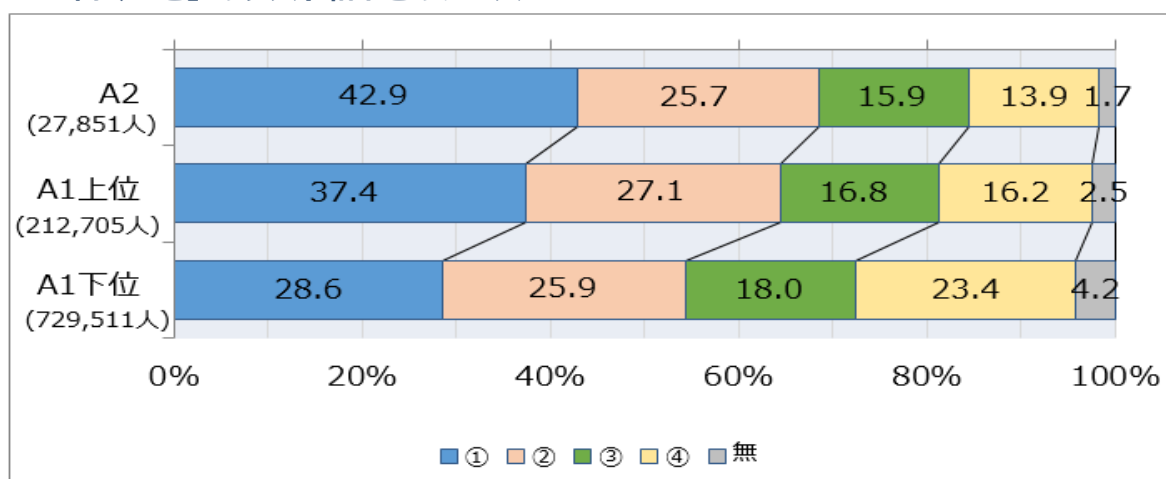
- ① そう思っていた
- ② どちらかといえば、そう思っていた
- ③ どちらかといえば、そう思っていなかった
- ④ そう思っていなかった



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス



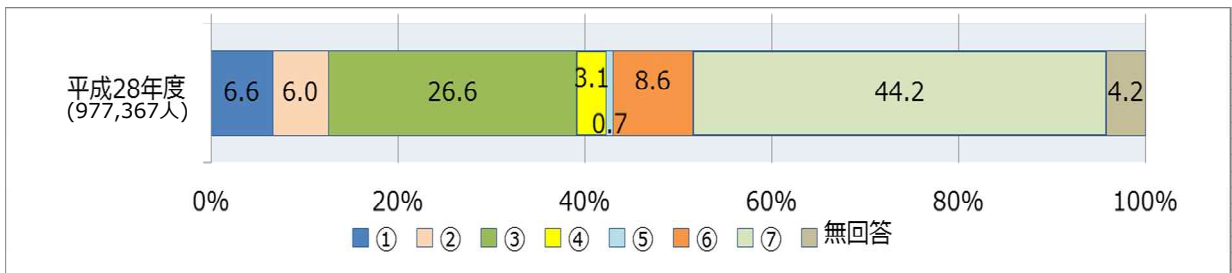
6. 小学校外国語活動指導に対する生徒・教員の意識③

将来の英語使用のイメージ

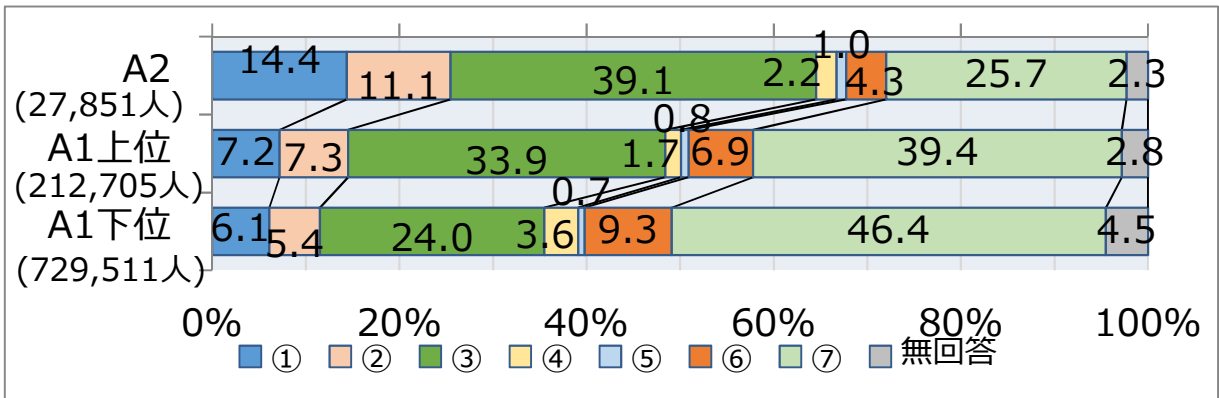
- 「英語を使ってしてみたいことは何でしたか」という問いに対し、「海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった」（選択肢③）を選択した生徒の割合が26.6%と高かった。
- 「聞くこと」「話すこと」のテストスコアが高い生徒ほど、テストスコアが低い生徒と比較して小学校の時に「海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった」（選択肢③）、「英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたかった」（選択肢①）生徒の割合が高くなった。

問 小学校の時、英語を使ってしてみたいことは何でしたか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。（新規）

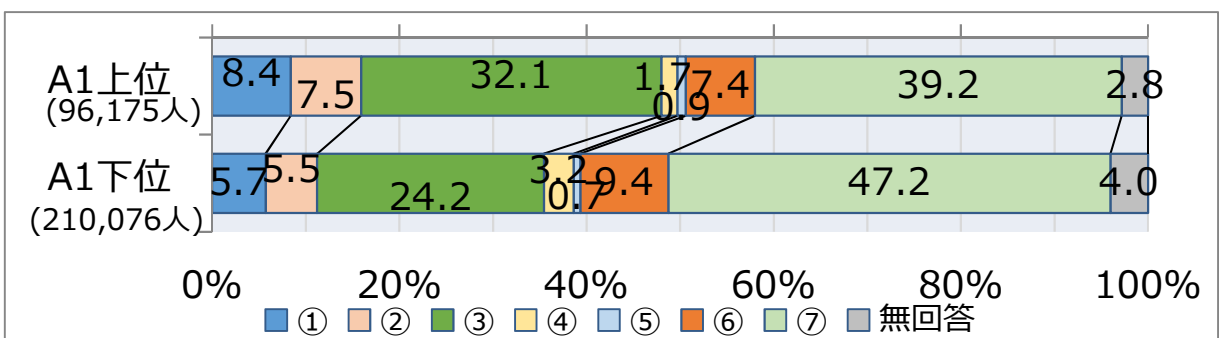
- ①英語を使って、国際社会で活躍できるようになりたかった
- ②海外でのホームステイや語学研修を楽しめるようになりたかった
- ③海外旅行などをするとき、英語で日常的な会話をし、コミュニケーションを楽しめるようになりたかった
- ④高校卒業後に、海外の大学などに進学できるようになりたかった
- ⑤大学で自分が専攻する学問を英語で学べるようになりたかった
- ⑥高校入試に対応できる力をつけたかった
- ⑦特に学校の授業以外での利用を考えていなかった



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



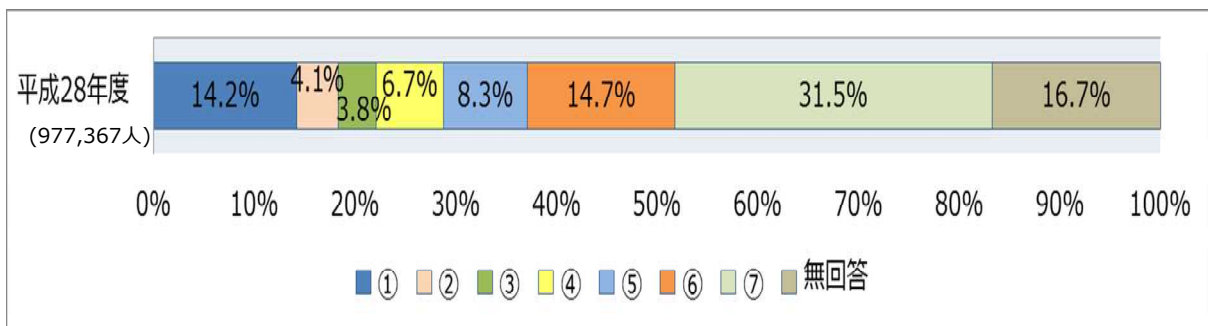
6. 小学校外国語活動指導に対する生徒・教員の意識④

学校以外における英語学習の開始時期

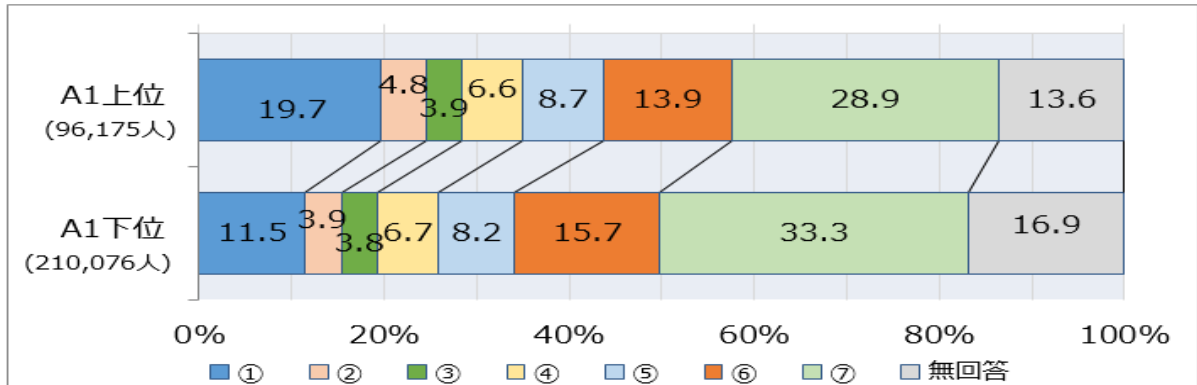
- 「あなたが学校以外で英語の学習を開始した時期はいつですか」という問いに対して「小学校6年生」（選択肢⑦）と回答した生徒の割合が31.5%と最も高い。

問 あなたが学校以外で英語の学習を開始した時期はいつですか。最も当てはまるものを1つ選んで下さい。（新規）

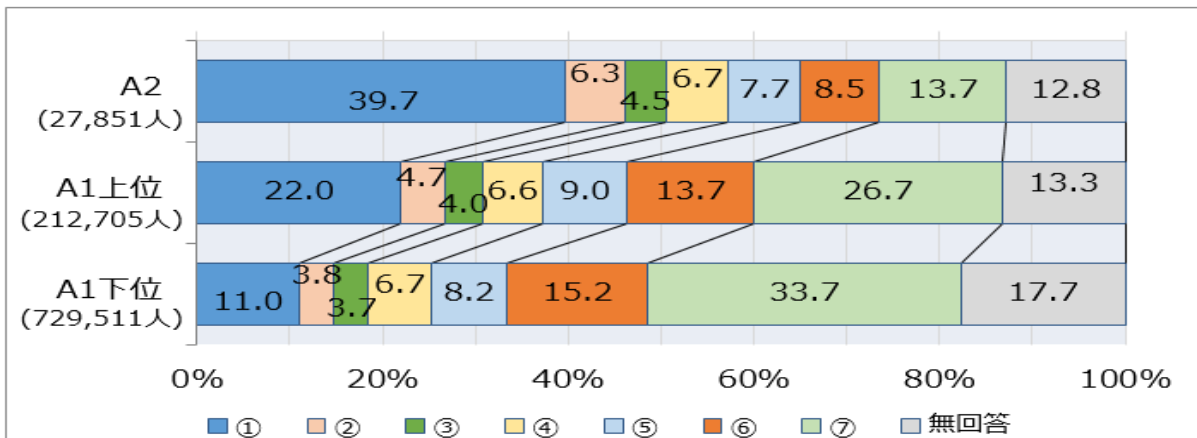
①小学校入学前 ②小学校1年生 ③小学校2年生 ④小学校3年生 ⑤小学校4年生 ⑥小学校5年生 ⑦小学校6年生



※「話すこと」のテスト結果とのクロス



※「聞くこと」のテスト結果とのクロス



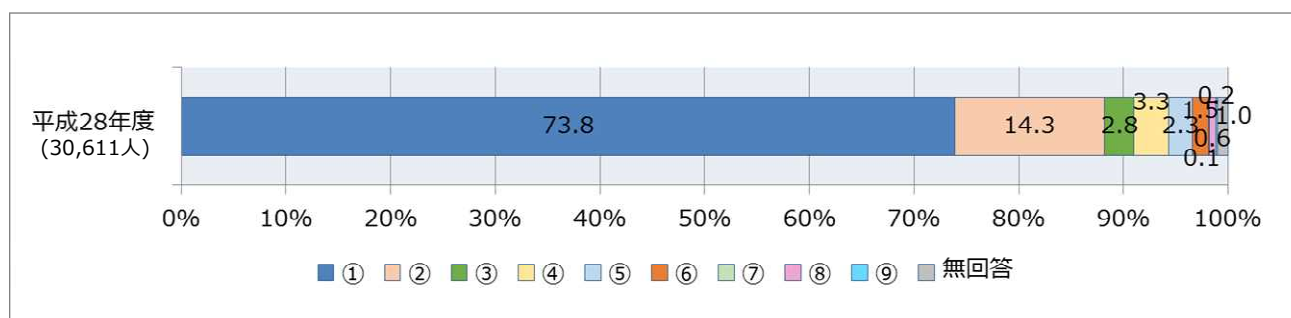
6. 小学校外国語活動指導に対する生徒・教員の意識⑤

外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力

- 外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力について、英語の音声に慣れ親しんでいる(選択肢①)と回答した教員は、73.8%。

問 外国語活動を経験した中学校の生徒の英語力について、具体的にどのような成果や変容がみられましたか。(新規)

- ①英語の音声に慣れ親しんでいる
- ②英語で活動を行うことに慣れている
- ③英語に対する抵抗感が少ない
- ④英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする
- ⑤英語を聞く力が高まっている
- ⑥英語の基本的な表現に慣れ親しんでいる
- ⑦分からない単語などがあっても、臆せず聞き続けたり聞き返したりしている
- ⑧友達の前で、英語で発表することなどに、慣れている(生徒同士の望ましい人間関係が醸成されている)
- ⑨英語を話す力が高まっている

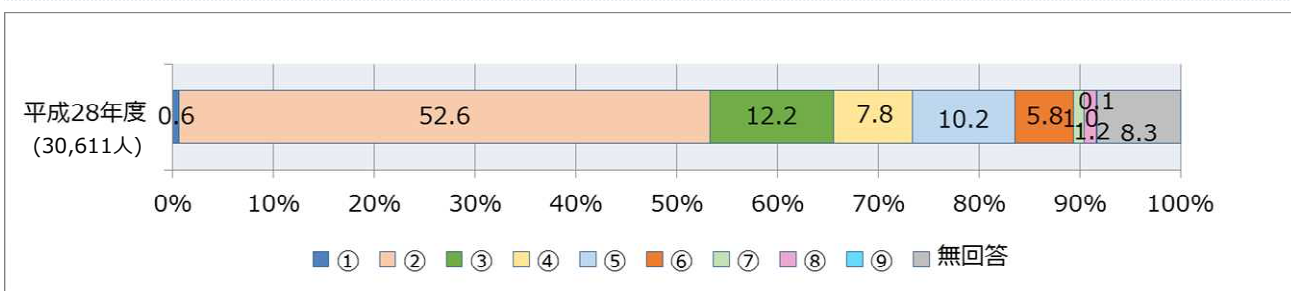


外国語担当教員の変化

- 小学校で外国語活動が行われたことで、小中連携に関する取組が一層促進された(選択肢②)と回答した教員は、52.6%。教員自身の、授業で英語を使うことに対する意識が一層高まった(選択肢③)と回答した教員は、12.2%。一方で、外国語活動を踏まえた指導の工夫がみられるようになった(選択肢①)と回答した教員は0.6%にとどまるなど具体的な指導レベルでの工夫は意識されていない。

問 小学校で外国語活動が行われたことで貴校の外国語担当教員に変化は見られましたか。(新規)

- ①外国語活動を踏まえた指導の工夫がみられるようになった
- ②小中連携に関する取組が一層促進された
- ③教員自身の、授業で英語を使うことに対する意識が一層高まった
- ④外国語科の目標や内容の共通理解が一層深まった
- ⑤指導計画や教材などについての共通理解が一層進んだ
- ⑥生徒理解が深まった
- ⑦外国語科全体による共通の指導体制の構築が一層進んだ
- ⑧特に変化は見られなかった
- ⑨その他



学校の取組紹介①：学習到達目標（CAN-DOリスト）に基づいて単元ごとに付けた力を明確化し、活用することを通して高い英語力を育成する

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成28年10月調査日時点）

学級数・生徒数	12学級（342名）／第3学年…5学級（118人）（特別支援学級2）
A L T等活用状況	非常勤1人
備考	「英語教育強化地域拠点事業」研究校・小中高連携した地域の学習到達目標作成

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該中学校の平均点	98.9	113.6	42.6	10.0
全国平均点（公立学校）	83.4 / 170	93.8 / 170	31.3 / 96	6.7 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒英語で問答したり、意見を述べ合ったりする活動の実施率が高い

- ◆ 「英語を読むことに関する活動」について、「英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**47.2%（全国は39.4%）**と全国平均を上回る。
- ◆ 「英語を話すことに関する活動」について、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりしているか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**63.0%（全国は34.4%）**と全国平均を大きく上回る。

4 特色ある授業内の取組

①小中高連携した学習到達目標（CAN-DOリスト）と、それを基にした年間指導計画

小中高で連携し拠点地域の学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で設定している。各校種間においては、授業見学等を月1回程度行い、体系的な指導を行うための授業改善や情報の共有化が図られている。「CAN-DOリスト」を基にした年間指導計画には、単元ごとに目標・評価方法なども記載されており、生徒とも共有することで、日々の学習・評価に生かされている。

②ペア・ワークやグループ・ワークを通じた統合型の活動

各単元では何を目標とし、どう活用するかを意識させた授業が繰り返し行われている。例えば教科書本文を読み、その内容について感じたことや考えたことについて即興的に意見交換させるなど、「読むこと」と「話すこと」を統合させた活動を行っている。また、学年が上がるにつれ、ペアから3～4人のグループへと活動形態を変え、ディスカッションへとつなげている。

③授業を実際のコミュニケーション場面にする取組

毎時間の帯学習で取り入れられている「チャットタイム」では、その日ごとのテーマについて即興的なやりとりをペアで行い、会話をする機会を習慣的に与えている。また、授業の中では、生徒に活動の場面や目的、相手を意識させ、様々な場面で活用できるよう英語でコミュニケーションを図らせている。

単元名	単元時数	単元の目標	評価方法	単元の学習	主な学習材料	単元の評価
4 History of Vegetables	12	単元の目標として、単元一貫して「英語で話すこと」を重視する。	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を行う。	教科書本文、学習教材、動画、音声教材、写真、イラスト、ポスター、ワークシート	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。
5 Vegetables in Japan	14	単元の目標として、単元一貫して「英語で話すこと」を重視する。	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を行う。	教科書本文、学習教材、動画、音声教材、写真、イラスト、ポスター、ワークシート	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。
6 This Day to Save the Earth	11	単元の目標として、単元一貫して「英語で話すこと」を重視する。	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を行う。	教科書本文、学習教材、動画、音声教材、写真、イラスト、ポスター、ワークシート	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。
7 読者の心をつかむコミュニケーション	8	単元の目標として、単元一貫して「英語で話すこと」を重視する。	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。	単元の目標を達成するために必要な学習活動を行う。	教科書本文、学習教材、動画、音声教材、写真、イラスト、ポスター、ワークシート	単元の目標を達成しているかどうかを確認する。

（単元を通じて何の力をつけるか、評価をどうするかが書かれた年間指導計画書）



（楽しく読める英語絵本の蔵書コーナー）

授業外の特徴ある取組

○読む力を一層伸ばすために

「読むこと」への興味関心を高める活動の一つとして、中学生でも楽しく読める英語絵本を、英語科の先生が選定し朝読書の時間に英語の本に触れる時間を取るなど行っている。

学校の取組紹介②：少人数の習熟度別指導を取り入れ、授業内で英語をたくさん使う工夫を行い英語に対する前向きな気持ちを育む。

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成28年10月調査日時点）

学級数・生徒数	15学級（463名）／第3学年…4学級（154人）
A L T等活用状況	非常勤1人
備考	「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」研修協力校

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該中学校の平均点	86.3	97.4	36.1	5.8
全国平均点（公立学校）	83.4 / 170	93.8 / 170	31.3 / 96	6.7 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒聞いたり、読んだりして概要や要点をとらえる活動の実施率が高い

- ◆ 「英語を聞くことに関する活動」について、「英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**50.4%（全国は33.3%）**と全国平均を大きく上回る。
- ◆ 「英語を読むことに関する活動」について、「英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**56.1%（全国は39.4%）**と全国平均を大きく上回る。

4 特色ある授業内の取組

①テンポのある言語活動・学習内容のスパイラル指導

50分×週4回という授業時間を最大限活用するため、ストップウォッチを用いながら活動内容に応じて時間を区切り、実践している。最初の10分はフレーズを練習したり、自分に置き換えて会話するなどウォーミングアップを行い、長文を読み、読めたら着席し、何について書かれているかを発表するなど活動の時間と学習の時間にメリハリをつけて定着を促す。

②習熟度別指導でより効果的な英語力を育成

1年生の最初の1～2か月は学校生活に慣れる期間とし、その後、アンケートや面談、筆記テストの結果や授業の様子、生徒本人の自己申告により2つのコースに分けて指導している。一つのコースでは生徒同士の教え合いなどを通して生徒自身の理解が深まるなどの効果がみられる。もう一方のコースでは、一人一人の学習の進捗に合わせた指導を行い、より生徒に合う英語の学びを実現している。

③単元横断型のアクティビティ（他教科の学びを応用）

直近の履修範囲のみならず、学んだ言語材料を使って横断したアクティビティの実施を重視している。例えば、他教科の指導方法を参考に、クラスを各グループに分け、それぞれに配られた異なるプリントの指示を正しくまとめ、何が答えかを導き出す活動を行っている。様々な英語表現を用いることや、一人一人が役割を持って参加する活動など独自の取り組みを実践している。

学級	読むこと	聴くこと	読むこと	書くこと
3年	<p>1. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>2. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>3. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>4. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p>	<p>1. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>2. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>3. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>4. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p>	<p>1. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>2. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>3. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>4. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p>	<p>1. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>2. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>3. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p> <p>4. 授業の導入や復習、家庭学習などにも活用できるような表現を学ぶ。</p>

（独自CAN-DO 目標と評価が明記されている）



（身近な内容を題材とした独自教材）

授業外の特徴ある取組

○正確に取り組み力の養成

正確に書いたり、読んだりするために、暗写、暗唱なども盛り込み、着実に素地を積み上げる工夫をしている。お昼休みにも練習をしたり、家庭学習の促しも行っている。

学校の取組紹介③：スピーチやプレゼンテーションなど、「話す活動」を観点別に評価し、3年間通じて表現力を育成する

1 学校プロフィール（※学級数及び生徒数は平成28年10月調査日時点）

学級数・生徒数	18学級（540名）／第3学年…5学級（169人）（特別支援学級2）
A L T等活用状況	非常勤1人
備考	「英語教育強化地域拠点事業」研究校・小中高連携した学習到達目標作成

2 テスト結果、質問紙における学校の特徴

	Reading	Listening	Writing	Speaking
当該中学校の平均点	89.1	101.1	37.2	8.4
全国平均点（公立学校）	83.4 / 170	93.8 / 170	31.3 / 96	6.7 / 14

3 生徒質問紙結果 ⇒英語でスピーチやプレゼンテーションする活動の実施率が高い

- ◆ 「英語を読むことに関する活動」について、「英語を読んで、概要や要点をとらえる活動をしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**45.3%（全国は39.4%）**と全国平均を上回る。
- ◆ 「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたか」という質問に対して「そう思う」と答えた生徒が**54.1%（全国は30.9%）**と全国平均を大きく上回る。

4 特色ある授業内の取組

①小学校での外国語活動経験を生かした学び

小学校での外国語活動の授業を実際に見て、新出単語を繰り返すだけではなく、単語を「カテゴリー」ごとに繰り返し言うことや、1人1人が授業内でしっかり答えられるような機会があることへの気づきもあり、日々の授業に反映したりしていく検討を行っている。ペア・ワークをメインとし、お互い発表したものを書いてまとめるなど、統合型の授業も行っている。

②「話す活動」を目的別に分類し、独自評価基準を作成

「話す活動」を、「即興的か」・「準備されたものか」、または「発信型か」・「双方向か」で区分し独自評価基準である『SDIPリスト（仮）』を作成。言語活動は、教科書の内容や文法を基にし、活動の目的・評価はこのリストを用いることで、同じテーマでも伸びを感じる活動を、継続して行っていくことができる。

③明確なパフォーマンステストの評価基準と即時フィードバック

パフォーマンステストはALTが対話者で、教員が評価を行う。観点は「どれだけ話ができただか（内容面）」「聞き手を引き込む表現ができたか」「不自然な間がないか」などで見て、その場で生徒にフィードバックをし、わかりやすい客観的な評価を実現している。考えて話せるようになることを指導において重視しており、表現のみならず、話し方・構成も育んでいる。

授業外の特徴ある取組

○高校生とのプレゼンテーション授業
年に1回、高校生とともにプレゼンテーションをしてお互い評価しあったり、質疑対応を学齢を超えて行っている。日々の学びの成果体験の場として設けられており、今年のテーマは「世界に誇れる日本人」である。

SDIPリスト

	Presentation	Free Talk/Intervew	Debate
S	新聞の記事やニュースなどから選んだ自分が関心のある社会的問題や時事問題について課題研究したとき、自分の立場だけでなく、相手と異なる見方の可能性を探ることに、5分程度説明することができた。	新聞の記事やニュースなどから選んだ自分が関心のある社会的問題について、相手の立場や状況を汲み取りながら自分の考えを述べ、お互いに自然な間がなく5分程度対話することができる。	新聞の記事やニュースなどから選んだ身近な社会的問題や時事問題について、自分の考えとその根拠を不自然な間がなく順序立てて話すことができる。また、相手の主張や意見に対して、できる限り即興で反論できる。
G3	与えられた事柄について、自分の立場だけでなく、別の事柄と対照しながら根拠を明確にもち、相手に訴えかけたり相手の興味や意向に合わせて話したりしながら、適切な資料を用いた5分程度説明することができる。	相手の立場や状況を汲み取りながら自分の考えを述べ、お互いに話題を広げたり深めたりしながら、不自然な間がなく5分程度対話することができる。	与えられた身近なテーマについて、自分の考えとその根拠を順序立てて話すことができる。また、相手の主張や意見に対して、できる限り即興で反論できる。
G2	与えられた事柄について、自分の立場とその根拠を明確にもち、相手に訴えかけたり相手の興味や意向に合わせて話したりしながら、適切な資料を用いた5分程度説明することができる。	相手の立場や状況を汲み取りながら自分の考えを述べ、お互いに話題を広げたり深めたりしながら、不自然な間がなく5分程度対話することができる。	与えられた身近なテーマについて、自分の考えとその根拠を順序立てて話すことができる。また、相手の主張や意見に対して、できる限り即興で反論できる。

（話す活動を活動の目的別に整理した独自リスト）

ルーブリック評価表

	Speed Task	Free Talk	Debate	Reading / Find info
A	内容を考えながら話した	互いの質問に対して上手に答えながら話した	本文の内容がよく分かり、その根拠を伝える	教科書に基づき、内容を考えながら話した
B	構えた内容を話せた	互いに質問し合っていた	本文の内容がよく分かった	教科書に基づき、内容を話せた
C	伝えたいことを十分話せた	途中で質問が止まった	本文の内容がよく分かった	読み取った内容を十分話せた

（パフォーマンステストの評価（ルーブリック））

調査問題・質問紙調査について

【調査問題の構成】

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・28問（約32分）
 - 「聞くこと」：多肢選択式・4パート構成・32問（約18分）
 - 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約25分）
 - 「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述
（**について評価基準を設け、教員が面接試験を（約10分）**）
- } 計約2単位時間
} 約10分

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 (「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力)			
問題構成	語彙・語法問題 10問 <small>(短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力)</small> ※A1相当	イラスト説明問題 8問 <small>(視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短文レベルの英文を正しく聞き分ける力)</small> ※A1相当	空所補充英作文問題 1問 <small>(対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英文を用いて表現する力)</small> ※A1相当	音読問題 1問 <small>(適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話す力)</small> ※A1～A2相当
	情報検索問題 8問 <small>(与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力)</small> ※A1相当	会話応答問題 8問 <small>(不意の問いかけに回答する適当な英文を素早く判断し、処理できる力)</small> ※A1相当	意見展開問題 1問 <small>(身近な事柄について、与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力)</small> ※A1～A2相当	質疑応答問題 1問 <small>(試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力)</small> ※A1～A2相当
	概要把握問題2問 <small>(与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力)</small> ※A1相当	課題解決問題 8問 <small>(日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報(イラスト)と音声情報から、その場で求められている課題(タスク)を解決する力)</small> ※A1相当		意見陳述問題 1問 <small>(与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力)</small> ※A1～A2相当
	要点理解問題 8問 <small>(まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力)</small> ※A1～A2相当	要点理解問題 8問 <small>(英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力)</small> ※A1～A2相当		

【生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成（約15分）】

項目	内容
生徒質問紙	<input type="checkbox"/> 英語そのものに関する意識 <input type="checkbox"/> 英語使用に関する経験 <input type="checkbox"/> 英語に関する試験の受験経験 <input type="checkbox"/> 英語の学習方法・内容や学習時間について <input type="checkbox"/> 学校の英語の授業について <input type="checkbox"/> 小学校外国語活動について
学校質問紙	<input type="checkbox"/> 教員単位での指導の実態について <input type="checkbox"/> 小学校外国語活動について
教員質問紙	<input type="checkbox"/> 学校組織での指導の実態について

生徒への質問	教員への質問	学校への質問
<input type="checkbox"/> 英語に関する意識 ・英語学習への関心 ・英語を身につけ何をしたいか [国際社会で活躍、大学で専門的に学ぶ、海外留学、日常会話、大学入試、他] <input type="checkbox"/> 4技能の活動状況 ・生徒同士で意見交換などを行っていたか <input type="checkbox"/> 小学校外国語活動について	<input type="checkbox"/> 英語の授業での言語活動や指導 [スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど] <input type="checkbox"/> 英語の授業での英語の使用状況 <input type="checkbox"/> 生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合 <input type="checkbox"/> 小学校外国語活動について	<input type="checkbox"/> 研修の実施状況 [模擬授業、授業相互参観、事例研究など] <input type="checkbox"/> 学校外研修の活用状況 <input type="checkbox"/> 言語活動に重点を置いた指導計画作成状況

問題の特徴 ～Reading Part A～

R

Part A
語彙・語法問題

短文中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な表現を判断する問題。

CEFR: A1

6 Tim sat on his grandmother's _____. It broke, so she had to buy another one.

- [A] hat
- [B] jacket
- [C] newspaper
- [D] watch

正答

D

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「読むこと」(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

■解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A	24.3%	17.1%
B	25.2%	10.4%
C	21.6%	5.1%
D (正解)	21.9%	65.6%
無解答	7.0%	1.8%

- A1下位レベルの正解選択率は21.9%。一方、A1上位レベルは65.6%と43.7ポイントの差があった。
- A1下位レベルの誤答は、選択肢[B]が最も多く25.2%であったが、正解以外の各選択肢に解答が分散した。
- 空所の後の情報に着目し、選択肢[D]watchを選ぶ必要があった。“broke”が、空所に入れられる情報の糸口となるが、「壊れるもの」が何であるかを類推できず、分散した解答結果となった。

■分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1下位レベルの語彙・語法問題 (Part A) の中には、正答率が70%を超えるものもある。
- ◆ Part Aの平均正答率は、A1上位レベルで70.9%であったが、A1下位レベルでは40.2%であり、A1下位レベルは平均が50%に満たない。
- ◆ 短文における話の流れや複数の情報相互の論理関係を理解する力に課題がある。

指導改善のポイント

- 教師がある一文の前半部分と接続詞だけを与えておき、接続詞から後ろの内容を生徒に自由に想像させ、表現する活動などが効果的である。例えば、“I like baseball, but…”と英文を提示し、生徒が“I played soccer yesterday.”のように話したり、書いたりすることで、読解のみならず実際の会話を想定したやり取りにつながる。
- 指導する際に必ず肯定文→否定文→疑問文と進めるのではなく、まずは相手に投げかけて、“Can you ~?” “Yes, I can.”、“No, I can’t.”と答えたことに対して“And?”など質問を続け、何か続けて言うような促しも重要。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

問題の特徴 ～Reading Part B～

R

Part B
情報検索問題

与えられた英文の題材から、短時間で必要な情報を引き出す問題。

CEFR : A1～2

Rivermont High School Show
Date: Saturday June 27th
Time: 2:00 pm - 7:00 pm
Place: 2240 Lakeside Road, Rivermont
All students! It's time for the Rivermont High School Show again!

Schedule:

Event	Event time
Telling Stories	2:00 pm - 3:00 pm
Playing Piano	2:00 pm - 4:00 pm
Singing	3:00 pm - 6:00 pm
Dancing	3:00 pm - 7:00 pm

Tickets are free! Bring your friends and family, and have a great time!
There will be seats for everyone!
Free drinks and snacks after the show.
A photographer will take photos during the event for you to take home to remember the show. \$1 for each photo.

14 What can you buy at the event?

- [A] Drinks.
- [B] Photos.
- [C] Snacks.
- [D] Tickets.

正答

B

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「読むこと」(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

■ 解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A	16.9%	2.5%
B (正解)	49.2%	93.1%
C	15.1%	1.5%
D	17.7%	2.8%
無解答	1.2%	0.1%

- A1下位レベルの正解選択率は49.2%。一方、A1上位レベルは93.1%と43.9ポイントの差があった。
- A1下位レベルの誤答は、選択肢[D]が最も多く17.7%であった。
- 上から英文を読み進めて、「買える物」について書かれている1行目に“Free drinks and snacks after the show.”とあり、選択肢[A]に“Drinks.”、[C]に“Snacks.”があるため、“Free～.”の意味に着目することなく選択肢と同じ単語に引きずられて解答している状況である。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1下位レベルの情報検索問題(Part B)の正答率は70%を超えるものもある。
- ◆ Part Bの平均正答率は、A1上位レベルで69.9%で、A1下位レベルでは42.5%であった。A1下位レベルは本問題形式において平均が50%に満たない。
- ◆ A1下位レベルは、英文の流れを大まかに押さえながら情報を検索することに課題がある。

指導改善のポイント

- インターネット等・新聞記事・広告・時刻表など生徒にとってふれる機会のある身近な題材を用意して、10分くらいの時間で、「楽しく読むこと」の活動として取り組むとよい。また、リスニングの素材で電車遅延のアナウンス、天気予報などの題材を、文字に書き起こして読ませ、取り組むのも効果的である。
- 素材を読むときに、1文1文丁寧に読むのではなく、さっと目を通し、その理解の確認として、「何の目的で書かれたものなのか」「何を伝えているか」などを中心としたやり取りを、教師と生徒の間で行うとよい。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

問題の特徴 ～Reading Part C～

R

Part C
要点理解問題

与えられた英文の題材について、短時間で概要や要点を読み取る力を測定する問題。

CEFR: A2

When Ms. Cameron was young, she was a great tennis player. However, she had to give up tennis when she started working. When she got older, she spent time with her son's family. Then, her son's family moved to France for his job, so she wasn't happy.

One day, a 10-year-old boy named Martin was hitting a tennis ball outside Ms. Cameron's house. Then, the tennis ball broke her favorite flower pot! "Oh no!" Martin said.

Ms. Cameron shouted, "You broke my pot! You should play at the sports center!"

Martin said he was sorry, and then he sadly said, "The sports center has no tennis classes for young kids."

Ms. Cameron wanted to help Martin with his problem. The next day, she visited the sports center. "I want to give lessons to the children," she told the coaches.

They liked Ms. Cameron's idea and said, "OK!" So, she started a tennis class for Martin and his friends. Soon, she became a popular coach.

Years later, Martin became a tennis champion. One day, he gave her a present. It was a new flower pot! There was a message on it: "You helped me grow up to be a tennis player!"

22 What problem did Martin have?

- [A] He broke his favorite tennis ball.
- [B] He had to play sports with younger kids.
- [C] There was no sports center in his town.
- [D] There were no tennis classes for him.

正答

D

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「読むこと」(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

■ 解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A	26.5%	8.3%
B	35.4%	18.4%
C	20.6%	11.3%
D(正解)	15.9%	61.8%
無解答	1.7%	0.3%

- A1下位レベルの正解選択率は15.9%。一方、A1上位レベルは61.8%と45.9ポイントの差があった。
- 第4段落最終文の“The sports center has no tennis classes for young kids.”の部分が読み取れなければならない。誤答選択肢では、設問である“What problem did Martin have?”、つまり主人公が抱えている問題である「テニスができないこと」の答えとして適当ではない。英文の主題(まとめるとどのような内容であるか)を類推することができていないことがわかる。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1下位レベルの要点理解問題(Part C)の中には正答率が45%を超えるものもある。
- ◆ Part Cの平均正答率は、A1上位レベルで49.9%で、A1下位レベルでは25.9%であり、A1上位・下位レベルともに本問題形式において平均が50%に満たない。
- ◆ 英文全体の意味を把握し、文脈や前後関係を押さえながら読むことに課題がある。
- ◆ まとまった量の英文を読み、概要や要点を読み取ることに課題がある。

指導改善のポイント

- まとまりのある英文を読むときに、いきなりまとまった長さで取り組むのではなく、パラグラフごとに「今登場していた人物は誰か」「何か読み解けたキーワードはあるか」など1つ1つスモールステップで確認しながら読み進めていくことが重要。その上で、クラス全体で、この素材は何をテーマにしていたか、など質疑をしたり、ペアで伝え合ったりする活動を取り入れると効果的である。
- やり取りしたことや読み取った内容を英語にまとめて書いてみるなどの活動を行うことも重要である。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

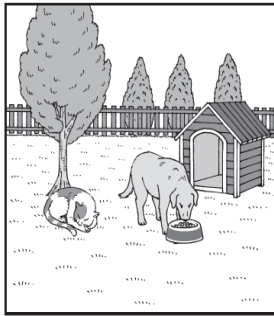
問題の特徴 ～Listening Part A～

L

Part A
イラスト説明問題

与えられた英文の題材について、短時間で概要や要点を読み取る力を測定する問題。

CEFR: A1



<スクリプト> [F: Female]

F:

- [A] A cat is sleeping by a dog.
- [B] A dog is following a cat.
- [C] A cat and a dog are sharing food.

正答

A

- [A]
- [B]
- [C]

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「聞くこと」(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

■ 解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A (正解)	58.5%	88.7%
B	20.9%	8.4%
C	19.4%	2.8%
無解答	1.2%	0.1%

- A1下位レベルの正解選択率は58.5%。一方A1上位レベルは88.7%と、30.2ポイント差があった。
- A1下位レベルの誤答は選択肢[B][C]に分散した。
- 選択肢[B]の英文で流れる“ A dog is following a cat. ”や、選択肢[C]の英文の“ A cat and a dog are sharing food. ”の中に出てくる“ follow ”や“ share ”の意味がわからずに、選択してしまったと考えられる。
- 正解選択肢[A] “ A cat is sleeping by a dog. ”の“ by ”という表現がA1下位レベルには定着していないと推察され、正答率の低さにつながった可能性がある。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1下位レベルのイラスト説明問題(Part A)の中には正答率が90%を超えるものもある。
- ◇ Part Aの平均正答率は、A1上位レベルで91.3%で、A1下位レベルでは70.2%であった。
- ◆ 英文を聞く際に、印象に残りやすい語に引きずられてしまう傾向がある。1文全体として意味をとらえることができない点に課題がある。英文全体の意味を理解し、その情報を一時的に保持した上で、解答にたどり着く力が求められる。

指導改善のポイント

- 指導の際、話がされている場面や状況を生徒が理解しているかどうかを確認することが重要である。特に本問題では、1問ごとに状況が異なるため、リスニングに取り組む度に、そういった視点で聞く姿勢を育むことが重要である。
- 教科書などのイラストなどを見て、「何をしているところか説明してみよう」など投げかけ、英語で表現してみる活動や、聞いたことを整理してまとめて、ペアで話し合うなどの活動を行うことが効果的である。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

問題の特徴 ～Listening Part B～

L

Part B
会話応答問題

不意の問いかけに回答する適当な英文を素早く判断する問題。

CEFR: A1

11

- [A]
- [B]
- [C]

<スクリプト> [F: Female, M: Male]
M: What color is your bag?
[A] My favorite color is orange.
[B] I really want a red bag.
[C] It's black with white flowers.

正答

C

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「聞くこと」(イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

■ 解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A	24.1%	8.0%
B	48.3%	34.4%
C (正解)	26.3%	57.5%
無解答	1.3%	0.1%

- A1下位レベルの正解選択率は26.3%。一方、A1上位レベルは57.5%と31.2ポイント差があった。
- A1下位の誤答としては選択肢[B]が48.3%と最も多い。
- 質問文“ What color is your bag? ”の“ What color～? ”と“ bag ”が印象に残り、選択肢[B] “ I really want a red bag. ”の“ red bag ”に引きずられたことが原因と考えられる。また、選択肢[A] “ My favorite color is orange. ”は「色」が含まれていることで選んだ可能性がある。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1上位レベルの会話応答問題(Part B)の中には正答率が50%を超えるものもある。
- ◆ Part Bの平均正答率は、A1上位レベルで45.5%で、A1下位レベルでは26.9%であり、A1上位・下位レベルともに本問題形式においても平均が50%に満たない。
- ◆ 慣れ親しんでいる語句・表現が使われている選択肢を選びやすい。また、1文の中に不慣れな単語や表現が含まれている場合は、全体の意味の把握に困難が生じると言える。

指導改善のポイント

- 指導の際に「こう聞かれた場合は、こう答える」といった「型」ではなく、様々なやり取りを提示して、答え方には色々あることを学ばせることが重要である。ペア・ワークなどを行い、示された例文だけでなくよいことも伝えてやり取りし、代表のペアがクラスで発表するなどの機会を持つとよい。
- 例えば、“Do you have a pen?”と聞かれたときに、“Yes, I do.”ということではなく、“Here you are.”のように返すなど、「相手がなぜそれを聞いているのか」、「相手の意向が何であるか」を類推する活動も効果的である。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

問題の特徴 ～Listening Part C～

L **Part C** **課題解決問題** 日本語で事前に与えられる状況設定およびイラストと放送される英文から、その場で求められているタスク(課題)を解決する力を測定する問題。 **CEFR: A2**

Questions 18 & 19

あなたの学校に海外から来賓の先生が来ていて、あなたは今の先生の授業を受けています。授業の最後に先生から説明があるので、聞きなさい。



あなたはぼわんがった紙をどこに置くか。

- (A)
- (B)
- (C)
- (D)

<スクリプト> [M: Male]

M: Pens and pencils go into the box on the desk. Put the paper you didn't use into the box under the desk. Paints and brushes go into the box on the table by the window.

正答

D

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「聞くこと」(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

■ 解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A	28.1%	8.1%
B	26.0%	12.2%
C	14.8%	5.2%
D(正解)	29.8%	74.4%
無解答	1.2%	0.1%

- A1下位レベルの正解選択率が29.8%。一方、A1上位レベルは74.4%と44.6ポイント差があった。
- 聞いた内容を理解しそれに最も合う解答(＝とるべき動作)を求められているため、複合的に状況を理解し、解答する力が求められている。英文1文目の“ Pens and pencils go into the box on the desk. ”の“ on the desk ”が印象に残ったために、選択肢[B]を選んだり、3文目の“ Paints and brushes go into the box on the table by the window. ”の“ by the window ”が印象に残り選択肢[A]を選んだりした可能性がある。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1下位レベルの課題解決問題(Part C)の中には正答率が65%を超えるものもある。
- ◆ Part Cの平均正答率は、A1上位レベルで76.0%であったが、A1下位レベルでは44.5%であり、A1下位は本問題形式においても平均が50%には満たない。
- ◆ 語句単位で断片的な理解はできているが、文全体及び文脈で意味を把握することに課題がある。

指導改善のポイント

- 例えば、お店で買い物をしている場面などのイラストを見せて、今何をしているところかを描写する活動をしてみるとよい。その際に、状況だけではなく、そこに登場している人物に吹き出しなどをおいて、「その人は何を言おうとしているか」など、文脈の中で求められているタスクを考えて表現させる活動なども効果的である。
- 上記と同じ場面で、「もし〇〇を買うなら、どこに行けばよいか」など、回答者本人がその場面に居合わせたと仮定して、適切に応じる活動なども効果的である。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

問題の特徴 ～Listening Part D～

L

Part D
要点理解問題

一定の長さの英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、適切な判断をする問題。

CEFR: A2

25 Where was the boy's cap?

- [A] In his bag.
- [B] Under the sofa.
- [C] In his closet.
- [D] At school.

<スクリプト> [F: Female, M: Male]
M: I finally found my cap.
F: Where was it? In your bag?
M: No, under the sofa.
F: From tomorrow, start putting it away in your closet after getting home from school.

正答

B

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「聞くこと」(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

■ 解答類型と反応率

選択肢	A1下位レベル反応率	A1上位レベル反応率
A	8.3%	1.4%
B(正解)	47.6%	74.2%
C	24.5%	16.4%
D	18.1%	8.0%
無解答	1.5%	0.1%

- A1下位レベルの正解選択率は47.6%。一方、A1上位レベルは74.2%と26.6ポイント差があった。
- A1下位レベルでは、誤答が選択肢[C]に集まっている。
- 最後の“～ start putting it away in your closet～ from school.”より、“closet”に引き寄せられ、その前後の英文の意味を理解できず、残りの選択肢から正しい答えを導き出すことができなかったことが原因であると考えられる。また誤答選択肢[D]も多く、最後に聞こえてきた単語“school”から選んだ可能性がある。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1下位レベルの要点理解問題(Part D)の中には正答率が50%を超えるものもある。
- ◆ Part Dの平均正答率は、A1上位レベルで60.2%であったが、A1下位レベルでは34.7%であり、A1下位レベルは本問題形式においても平均が50%には満たない。
- ◆ まとまった英文から必要な情報を聞き取ることに課題がある。

指導改善のポイント

- 音声をたくさん、何度も聞くことだけでなく、今回のような「場所などを表す前置詞」の使い方の理解が深まるよう、異なる英文の中で繰り返し取り組むことが重要である。
- 例えば、「○○はどこにありますか?」「そこにあります」だけでなく、「カバンの中にあります」と加えたり、続けて、「何をしますつもりなんですか?」「△△に行くときに持っていくます。一緒に行きますか?」「行きたいです」などのように、一つ一つは簡単な英語のやり取りでも、まとまった英文から必要な情報を聞き取ることができるよう長くやり取りを続けることができる活動をさせることが効果的である。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

問題の特徴～Writing①～

W

空所補充問題

対話文中の空所に当てはまる応答を前後の文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定する問題。

CEFR: A1～2

1. 次の対話文(1)、(2)の()に合う適当な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文で書きなさい。
1.の時間は2問あわせて5分です。

(1) あなたは友達Mikeたちと駅で会うことになっています。
Mike: Here you are! Finally! We're all waiting for you!
You: (1)
Mike: That's OK. It is only by 10 minutes. Don't worry.
You: Thanks.

(2) あなたは教室で友達Kenに話しかけます。
You: Hi, Ken. Sorry, but I want to ask you something. (2)
Ken: Sure.
You: I forgot mine. I just need to write my name on my homework.
Ken: OK. Here you are.
You: Thanks.

正答例

- (1) I'm sorry to be late.
(2) Can I borrow your pen?

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「書くこと」(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

■得点と割合

(1)	得点	A1下位レベル割合	A1上位レベル割合
	0	92.5%	37.9%
	1	7.5%	62.1%
(2)	得点	A1下位レベル割合	A1上位レベル割合
	0	99.4%	79.2%
	1	0.6%	20.8%

- A1下位レベル1点の割合は(1)が7.5%、(2)が0.6%であった。A1上位レベルでは、(1)が62.1%、(2)が20.8%と、レベル間でそれぞれ差があった。
- A1下位レベルで0点だった生徒は、空所前後の英文の内容を読み取ることができなかつたためか、脈絡のない英文を書いている答案が多かつた。また、無解答も目立つた。
- A1上位レベルの生徒になると、空所前後の英文の内容を読み取って状況を理解し、空所に入れるべき内容は理解できているが、文法的に誤った英文を書いて不正解になってしまう答案が多く見られた。

■分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1上位レベルでは、空所前後の英文の内容を読み取って、状況と空所に入れるべき内容を理解することができている。
- ◆ A1上位レベルでは、空所に補充すべき英文を思いついてはいるが、英文を構成する段階で文法ミスなどのつまずきがある。
- ◆ A1下位レベルでは、英文の理解そのものに課題がある。

指導改善のポイント

- 内容に合う文を書く力をつけるためには、対話文のあとにもう一文加える活動が考えられる。
例: Did you watch the soccer game yesterday?
-Yes, I did. ()
空欄に、具体例や理由を付け加える。
- 中学1年生の教科書素材文など、これまでに習った対話文の一部を空欄にし、そこに入る内容を考える活動が効果的である。その際、書く活動だけでなく、口頭で答えるなど、話す活動を通して英文の意味を理解しながら書くことの活動を行うとよい。

(◇:得点できている点 ◆:課題のある点)

問題の特徴～Writing②～

W

意見展開問題

与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見や考えを説得力を持って書いて表現する力を測定する問題。

CEFR:A2

あなたは授業中に、下記のテーマで英語の作文を提出することになりました。

作文のテーマ：

あなたが将来やってみたいことや、なりたいものは何ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うのか、その理由を書きなさい。



解答例

I want to travel foreign countries in the future. There are two reasons for this. First, I want to talk to people in different countries. By doing this, I can make a lot of friends all over the world. This is one of my dreams. Another reason is that travel can give me a wider view of the world. I can learn different points of view and different ways of thinking through traveling. I think this will help me in the future. For these reasons, I want to visit many countries.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「書くこと」(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

■得点と割合

項目：「内容」

意見

得点	A1下位レベル 割合	A1上位レベル 割合
0	55.9%	0.7%
1	44.1%	99.3%

理由

得点	A1下位レベル 割合	A1上位レベル 割合
0	55.2%	0.1%
1	44.8%	99.9%

項目：「表現」

語彙

得点	割合
0	40.4%
1	40.8%
2	18.7%
3	0.0%
4	0.0%

文法

得点	割合
0	55.3%
1	35.3%
2	9.4%
3	0.0%
4	0.0%

項目：「構成」

得点	割合
0	65.1%
1	26.7%
2	8.2%
3	0.0%
4	0.0%

- A1下位レベルでは、意見を書けた生徒は44.1%、理由を書けた生徒は44.8%であった。
- A1上位レベルでは、意見・理由ともに99%以上の生徒が書けていた。
- 観点「表現」「構成」では、「構成」の得点がほかよりやや低い結果となっている。

■分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ A1上位レベルのほとんどの生徒が「意見」と「理由」を読み手に伝わる形で書くことができている。
- ◆ A1上位レベルでは、テーマに沿った内容を書くことはできているが、正しい語彙・文法を用いてまとまりのある内容に膨らませる部分に課題がある。
- ◆ A1下位レベルでは、意見となる英文を正しい語彙・文法で書く点に課題がある。

指導改善のポイント

- 伝えたい内容に必要な語彙のインプットを増やすために、生徒が話す活動時に会話をした内容を書くなどの活動も効果的である。
- アイディアの膨らませ方は、教科書のモデルを見せるだけではなく、表現の仕方を教師が実践して示す必要がある。その際、生徒の伝えたい内容を、簡単な語句や短い文章で流れを示すことが重要である。
- 段階的に書く量を増やしていく必要がある。
例：アンケートのフォーマットに書く活動として、あらかじめ“Name”, “Dream”, “Reason”の枠を作っておき、書くべき内容を意識しながら短い文を書く練習をする。

(◇:得点できている点 ◆:課題のある点)

問題の特徴 ～Speaking Part A～

S

Part A
音読問題

適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを英語を話すことができるかを測定する問題。

CEFR: A1

<試験官用スクリプト>⇩

Please read the passage silently for 30 seconds.⇩

<30 seconds>⇩

Now please read it aloud.⇩

I just saw Keiko during lunch. She told me that her family was moving to France. I couldn't believe it! It will be great for her to live in France, but she doesn't speak French. What will she do about that?⇩

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「話すこと」①強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音することができる。

■得点率

【CEFRレベル別】

【全体】

得点	割合
0点	9.7%
1点	48.1%
2点	42.2%

得点	割合	
	A1下位レベル	A1上位レベル
0点	12.8%	0.1%
1点	59.9%	12.5%
2点	27.3%	87.4%

- 約1割の生徒は適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う音読であった(0点)。
- 5割弱の生徒が、与えられた40語程度の英文を、日本語の発音になっていたり、一部発音ミスがあったりするが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを音読できていた(1点)。
- 4割強の生徒が、与えられた40語程度の英文を、明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話せていた(2点)。
- スピーキング受験者のA1上位レベルとA1下位レベルを比較すると、A1上位レベルの9割弱は2点だったのに対し、A1下位レベルの6割弱は1点であった。

■分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ 全体では9割以上の生徒が、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話せている。
- ◆ A1上位レベルの9割弱は2点である一方、A1下位レベルの7割以上が1点以下であり力の差が明らかとなった。
- ◆ 0点の生徒は、検収結果を分析した結果、発音はしているものの、ミスの数により減点されて0点となっている例が多い。この設問では、duringなど発音が難しい語彙につまずいたり、疑問文を適切なイントネーションを伴わずに読み上げてしまう例が見られた。

(◇:得点できている点 ◆:課題のある点)

指導改善のポイント

- A1上位レベルの生徒は語彙の発音は正しくできているものの、英語らしいリズムやイントネーションに課題がある。音読の際に意味を意識した音読が必要である。また、単純に練習する回数を増やすのではなく、場面を意識した音読ができていたかフィードバックを行うことがのぞましい。
- A1下位レベルの生徒の多くは語彙の発音に課題がある。発話量を増やす指導が推奨される一方で、正確性の指導が少なくなっているために、生徒が正しい発音を体得しないままになっている可能性がある。音読指導を通して生徒がつまずきやすい語彙の発音を練習することが大切である。

問題の特徴 ～ Speaking Part B ～

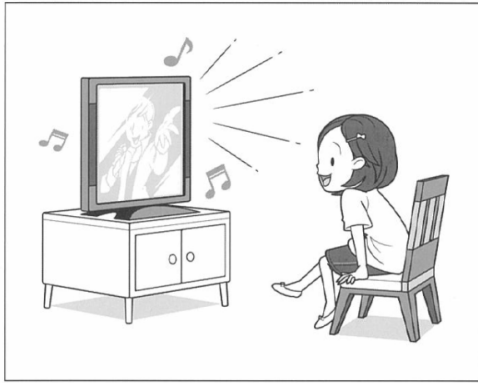
S

Part B
質疑応答問題

個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、質問に対して即座にかつ適切に応答することができるかを問う問題。

CEFR: A1

Picture A



<試験官用スクリプト>

Question No.1

Please look at Picture A. What is the girl doing?

<解答例>

She is watching TV.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「話すこと」② 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。

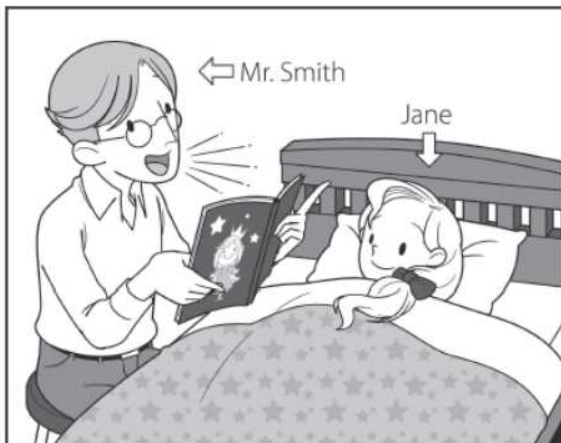
S

Part B
質疑応答問題

個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、質問に対して即座にかつ適切に応答することができるかを問う問題。

CEFR: A1

Picture B



<試験官用スクリプト>

Question No.2

Please look at Picture B. What is Mr. Smith doing?

<解答例>

He is reading a book to Jane.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「話すこと」② 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。

問題の特徴 ～Speaking Part B～

S

Part B
質疑応答問題

個人の経験や考えをもとに、もしくは聞いたり読んだりしたことをもとに、質問に対して即座にかつ適切に回答することができるかを問う問題。

CEFR: A1～A2

<試験官用スクリプト>

Question No.3

Which do you like better, playing sports or watching sports? Why?

<解答例>

I like playing sports more than watching sports. I usually enjoy playing soccer with my friends. I am very excited when my team wins.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「話すこと」③ 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすることができる。

■ 得点率

【全体】	【内容の評価:CEFRレベル別】		【文法・表現の評価:CEFRレベル別】			
	内容	文法・表現	得点	割合	得点	割合
0点	6.5%	9.6%	0点	8.6%	0点	12.8%
1点	19.3%	29.1%	1点	25.6%	1点	38.4%
2点	37.5%	39.0%	2点	45.4%	2点	40.3%
3点	36.8%	22.3%	3点	20.5%	3点	8.5%

- 全体では約7割の生徒が相手の発話に対応した適切な内容で、概ね、もしくは全てに回答できていた。
- 全体で約6割の生徒が、適切、もしくはほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りがあったとしても、伝えたい内容はわかるだけの解答ができていた。
- A1上位レベルは9割弱が内容の評価で3点だったのに対し、A1下位レベルでは2割とかなり少ない。A1下位レベルでは0点・1点・2点の割合が約8割と高い割合を占める。文法・表現の評価についても、A1上位レベルは3点が6割強なのに対し、A1下位レベルは2点までに約9割が集まっている。
- A1下位レベルの内容の評価の平均点は約1.8点なのに対し、文法・表現の評価の平均点は約1.4点であった。同様にA1上位レベルの内容の評価の平均点は約2.9点なのに対し、文法・表現の評価の平均点は約2.6点であり、いずれも内容の評価より文法・表現の評価の得点率が低い。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ 全体としてある程度は適切な内容で回答できている。
- ◆ A1上位レベル・下位レベルとも、身近な話題であっても、即興的な質問に対して回答する内容を判断し、適切な英文を組み立てて発話する力や、文法・表現を適切に使うことに課題がある。
- ◆ A1上位レベルは、自分自身の意見を支持する理由を言う力に課題がある。
- ◆ A1下位レベルは、基本的なミスが繰り返し出てきたり、使える文法や表現が限定的であったりする点に課題がある。

(◇:得点できている点 ◆:課題のある点)

指導改善のポイント

- 意見を支持する理由を言えるようにするために、まずは教師自身が授業の中でbecauseを多くの回数使い、理由を付け加えて話すことで、生徒にモデルを見せることが大切である。
- モデルを見せた上で、生徒に即時性のある質問を行った後、“Why?”と質問し理由まで答えさせることが効果的である。
- A1上位レベルである程度話せる生徒に対しては、ICTなどの機器を利用し、自分自身の発話を振り返る機会を設けるとよい。
- A1下位レベルは、まずは発話する内容を考えさせるために、生徒から単語を引き出し、教師が文にして生徒に繰り返させることや、生徒同士のペアで言うべき内容を考えさせるとよい。

問題の特徴 ～Speaking Part C～

S

Part C
意見陳述問題

与えられた話題について、個人の考えや経験などに基づいて自分の意見とその理由を述べる力を測定する問題。

CEFR:A2

<試験官用スクリプト>

What is the best way to learn English, and why do you think so?

You will have one minute to think about your answer. Then, you will have one minute to speak.

Now, please begin.

<解答例>

I think the best way to learn English is to read English stories out loud. It helps you to remember new words and phrases.

※ Copyright © 2017 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

中学校学習指導要領 外国語より

「話すこと」④ つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けることができる。
「話すこと」⑤ 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることができる。

■ 得点率

【全体】

【内容・構成の評価:CEFRレベル別】

【文法・表現の評価:CEFRレベル別】

	内容・構成	文法・表現	得点	割合		得点	割合	
				A1下位レベル	A1上位レベル		A1下位レベル	A1上位レベル
0点	51.7%	53.1%						
1点	21.8%	22.3%	0点	68.6%	0.5%	0点	70.5%	0.4%
2点	16.5%	16.9%	1点	24.3%	14.0%	1点	24.3%	16.2%
3点	10.0%	7.7%	2点	6.7%	46.3%	2点	5.0%	52.8%
			3点	0.4%	39.2%	3点	0.1%	30.7%

- 全体では、与えられた質問に対応した内容で、論理展開がわかりやすい構成を伴って応答できた生徒は全体の1割にとどまった。一方で、与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的であると判断された生徒は約5割と多かった。
- 適切な文法や表現を用いていて、誤りがあっても理解には影響しない程度と判断された生徒は全体で1割未満と少なく、全体の5割以上が、使える文法や表現は限定的、あるいは自分の言葉で話せた内容が10数語に満たないと判断された。
- A1上位レベルは8割5分以上が2点以上で、要素を関連付けながら、論理的に応答できていたのに対し、A1下位レベルの約7割が0点で、与えられた質問に対応していない、もしくは発話がほとんどないか断片的であった。約2割5分の生徒が1点で、質問に応答してはいるものの、単純な要素を並べ立てているのみの発話であった。
- A1上位レベルの生徒の8割以上が2点以上で、文法や表現に誤りは出てくるものの、伝えたい内容はわかる、もしくは理解に影響しない程度だったのに対し、A1下位レベルでは約7割が0点、2割強が1点と低い結果だった。

■ 分析結果と指導改善のポイント

分析結果

- ◇ 生徒質問紙で「英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか」という問いに対し、中学1年～3年の全学年で、A1上位レベルの方がA1下位レベルよりも「そう思う」の割合が高かった。論理展開やつなぎ言葉を意識した対応ができていたことが今回の点数差につながったと言える。
- ◆ A1下位レベルは0点の割合が高く、発話量自体が非常に少なかったり、断片的になってしまったり、相手の発話に対応した応答ができなかったりすることが課題である。またこの点はできている生徒でも、単純な要素を並べ立てて発話するところまではできるが、要素を関連付けながら応答する点に課題がある。

指導改善のポイント

- A1上位レベルが説得力のある意見と理由を伝える力を付けるために、普段の授業から、大事なことをメモする習慣を付けさせるとよい。先生の言ったことをそのままメモするのではなく、キーワードをメモさせたり、先生が書いた内容に対してどう考えたのか、自分の答えを書かせることで、自分なりの意見や理由を言う力が身に付く。また、理由の欠けているモデル文をALTが示し、何が欠けているのかを考えさせる活動も効果的である。
- A1下位レベルの生徒に対しては、生徒から単語レベルの解答を聞き出し、教師が文にして繰り返させることが効果的である。また問題自体が理解できていない場合に質問を聞き返す表現を指導するとよい。

(◇: 得点できている点 ◆: 課題のある点)

「書くこと」の調査について

【「書くこと」採点体制】

答案をスキャンデータで海外採点会場へ送り、海外専任スタッフが採点を行う。
採点監督者、採点チームリーダー、採点者の体制（※人数については受験人数・時期に対応して増員）で採点を実施。
より確実な採点を行うため、同じ答案を2名の採点者が担当する。

* 採点監督者および採点者には、2ヶ月間の事前研修を実施。

【採点基準】

■ 1. 空所補充英作文問題

	0	1
内容	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができています。

■ 2. 意見展開問題

		0	1	2	3	4
内容（意見）	課題に対する自分の意見や立場を伝えることができています。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところがある。	様々な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができています。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができています。	豊富で多様な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができています。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができています。
	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができています。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところがある。	様々な文のパターンを用いることができています。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができています。	豊富で多様な文のパターンを用いることができています。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができています。
内容（理由）		英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かつたり、言いたいことがうまくまとまらなかつたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかつたり、言いたいことがうまくまとまらなかつたりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところがある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができています。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができています。

「話すこと」の調査について

【スピーキング事前研修】

事前に送付するスピーキングテスト研修用DVDと冊子を活用し、研修を受けた状態で教員が面接試験を実施する。

【研修の目的】

実施環境の設定、出題内容、評価方法、評価基準について理解することを目的とする。DVDに収録されている「トライアル採点課題セット」に取り組み、内容理解度を確認する。

【研修の内容】

項目	目的	内容
テスト実施の流れ	スピーキングテストの実施の流れ（事前準備～実施～採点）を把握する。	テスト実施全体の流れ 事前準備 テスト実施 採点結果記入
採点について	採点観点と基準、応答例・採点法、採点基準ごとの解答例を把握する。	採点観点と基準 応答例・採点 各得点における解答例 ・Part A（音読） ・Part B（即興を前提とするやりとり） ・Part C（ある程度の準備をした上で話すこと）
トライアル採点課題セット	トライアル採点を行い、理解度を確認する。	トライアル採点課題セットの活用について 5名分の応答例

【テスト実施の全体の流れ】

1: 事前準備

- ・テスト構成、採点観点・採点基準を確認する
- ・「トライアル採点課題」に取り組み、採点結果をWeb上の「採点結果入力画面」に入力し送信後、アンケートに回答する
- ・問題用紙、エントリーカードの準備を行う
- ・受験者に事前に注意事項を伝達する
- ・試験会場の設営を行う

2: テスト実施

- ・入室 → 本人確認 → 質疑応答 → 退室

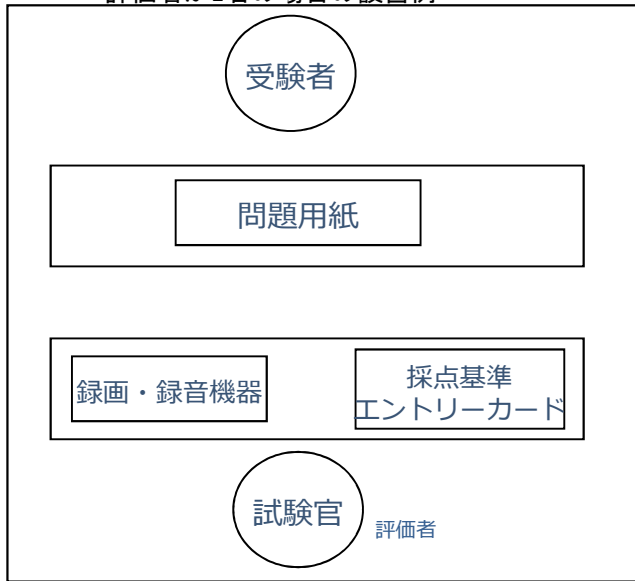
3: 採点結果

記入

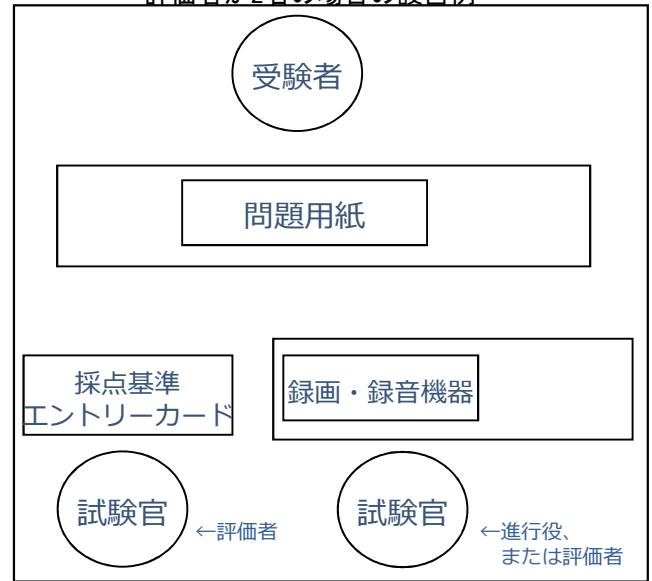
- ・エントリーカード(採点結果の記入欄)に採点結果を記入する
- ・エントリーカードに記入漏れがないかを確認する

【試験会場の設営】

評価者が1名の場合の設営例



評価者が2名の場合の設営例



【スピーキング採点基準】

	Part A:音読	Part B:即興を前提とするやりとり		Part C:ある程度の準備をした上で話すこと	
	音読の評価	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点		相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに回答できている。	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない。	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない。
2点	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話せている。	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ回答できている。	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連づけて述べている。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話せている。	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは半分以下である。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べ立てている。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる。
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う。	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど回答できない。	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない。	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない。

(別紙)

外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠について

熟練した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会第2回(2016/03/25)資料

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0					
C1	CAE (180-199)	1級 (2630-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1284-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0					200-380 L&R 120~ S&W 80~

http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEFL : 米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clbk>

TOEIC : IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>

IELTS : ブリティッシュ・カウンシル (および日本英語検定協会) 資料より

「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TEAP : 第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

※各団体の公表資料より作成

Cambridge English (ケンブリッジ英検) : ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

(別紙)

CEFR / CEFR-J をもとにした本調査の測定範囲

調査結果について

本調査結果では、英語力の指標としてCEFRおよびCEFR-Jを用いた。CEFR-Jは、CEFRに準拠して基礎レベルをより詳細に枝分かれさせた日本人英語学習者向けの参照枠でCEFRの「A1」は、CEFR-Jでは「A1.1」「A1.2」「A1.3」に分割される。本調査のCEFR閾値は、「Pre A1」「A1.1」を「A1下位」、「A1.2」「A1.3」を「A1上位」とした。各レベルが表す英語力の目安は以下表の通りである。

CEFRレベル	Reading	Listening	Writing	Speaking (表現)	Speaking (やりとり)	測定範囲		
						高校	中学	
B2	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組なら、大部分は理解できる。	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。身近なコンテキストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。			
B1	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテキストなら理解できる。起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語るすることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいの状況に対処することができる。例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。			
A2	A2.2	簡単な英語で表現されている人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック(自分のこと、学校のこと、地域のことなど)について、短いスピーチをすることができる。	簡単な英語で、意見や気持ちや反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。			
	A2.1	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。	ゆっくりはっきりと放送された、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。			
A1 上位	A1.3	簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。	自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文に用い、複数の文で意見を言うことができる。	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。		
	A1.2	簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。	趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。	簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	前もって発話することを留意した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に応答することができる。		
A1 下位	A1.1	「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。	当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。	住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。	基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報(家族や趣味など)を伝えることができる。	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。		
	Pre.A1	口頭活動で既に慣れ親しんだ絵本の中の単語を見つけることができる。	ゆっくりはっきりと話されれば、日常の身近な単語を聞き取るすることができる。	アルファベットの大文字・小文字、単語のつづりをブロック体で書くことができる。	簡単な語や基礎的な句を用いて、自分についてのごく限られた情報(名前、年齢など)を伝えることができる。	基礎的な語句を使って、「助けて!」や「～が欲しい」などのインプットの要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。		

(出典)『CAN-DOリスト作成・活用 英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』(2013)、投野由紀夫(編)、大修館書店
 (出典) Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、吉島茂、大橋理枝(訳、編)、朝日出版社
 ※上記出典をもとに、「B2」「B1」は「CEFR」、「A2」「A1」は「CEFR-J」のCAN-DO文言をもとに作成

外部試験団体と連携した英語力調査事業

平成28年度予算額 62,609千円(116,325千円)

英語教育の在り方に関する有識者会議報告(H26. 9. 26)

生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において掲げられている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度以上)を達成した中・高生の割合90%)から、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力。例えば、高等学校卒業段階で、英検2から準1級、TOEFL iBT100点程度等以上を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

生徒の英語力向上推進プラン(H27. 6. 5)

①生徒の英語力に係る国の目標を踏まえ都道府県ごとの目標設定・公表を要請
②「英語教育実施状況調査」に基づく都道府県別の生徒の英語力の結果の公表
③義務教育段階の中学校については、英語4技能を測定する「全国的な学力調査」を国が新たに実施することで英語力を把握
④中・高・大学での英語力評価及び入学選抜における英語の4技能を測定する民間の資格・検定試験の活用を引き続き促進。

- H26より高等学校第3学年、H27より中学校第3学年を対象に生徒の英語力を把握し、その結果を分析・検証
*平成27年度は高等学校第3学年約9万人、中学校第3学年約6万人を対象に実施。
- 「第2期教育振興基本計画」の成果指標である英語力を4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)にわたって測定するフィージビリティ調査
- 生徒の英語力や学習状況について把握・分析を行い、それらの結果を指導改善に活用
- 平成28年度は、中学校第3学年を対象に調査を実施
(経年比較を含めた分析を実施)
- 「生徒の英語力向上推進プラン」(H27.6文部科学省発表)を受け、中学校については、英語の4技能を測定する「全国的な学力調査」の導入*等に向けた検討において活用

(参考)今後の実施イメージ

<高等学校第3学年の調査>

①「教育振興基本計画」のPDCAサイクルにおけるCheck機能、②教育委員会等における指導改善の活用に資するものとして、調査時期については計画達成状況の把握に必要な時期に実施。

※平成28年度は実施しない。

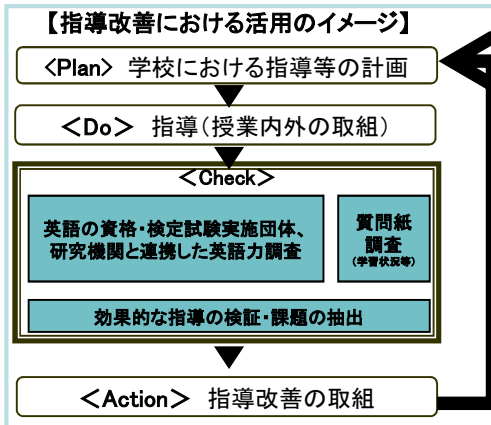
(実施パターン例:「教育振興基本計画」の期間中、期首・中間・期末 など)

<中学校第3学年の調査>

平成28年度調査を実施。

(その後の予定(イメージ):「全国的な学力調査」の詳細設計(H29~)、予備調査実施(H30~))

*平成31年度を目途に文部科学省「全国的な学力調査に関する専門委員会」英語ワーキンググループにおいて検討



◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

(参考)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台上で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学者数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを旨とする。

※能力の例:国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

【成果指標】

<グローバル人材関係>

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される**英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度~2級程度以上)を達成した中高生の割合50%**

②英語教員に求められる英語力の目標(英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点程度以上)を達成した英語教員の割合(中学校:50%、高等学校:75%)

◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

(H26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議)(抜粋)

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度~2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、**生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。**これまでに設定されている英語力の目標から、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

平成28年度 英語教育改善のための英語力調査

【目的】

全国で無作為に抽出した国公立中学3年生約6万人(約600校)を対象に、次期学習指導要領の着実な実施に向け、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の英語力がバランスよく育成されているかという観点から、教員の指導改善に活用できるよう、生徒の英語力や学習状況を把握・分析する。

【スケジュール】

4月上旬	○教育委員会から実施校へ依頼・説明 ○教育委員会等への事業説明会
5月初旬	○検討委員会 ・分析方針、試験問題、質問紙等について検討
6月下旬～7月	○各学校において調査実施
9月～12月	○学校結果・生徒個票等返却
2月	○調査結果速報版公表
3月	○調査結果報告書とりまとめ・公表

「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」の設置について

平成28年3月29日
初等中等教育局長決定

【設置の趣旨】

平成28年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

【取扱事項】

- (1) 生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
- (2) 調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
- (3) その他

【委員名簿】※五十音順

安間 一雄 獨協大学国際教養学部言語文化学科 教授
 岡部 憲治 工学院大学附属中学校・高等学校 教諭
 竹内 理 関西大学外国語学部外国語学科 教授
 根岸 雅史 東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
 主査 松本 茂 立教大学グローバル教育センター長
 森 博英 東京女子大学現代教養学部人間科学科 教授
 渡部 良典 上智大学言語科学研究科 教授

文部科学省においては、次の関係官が担当。

平木 裕 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官
 (併) 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
 初等中等教育局 国際教育課 外国語教育推進室 教科調査官

